

科目名	法学概論（現代の法律Ⅱ）			科目コード	23010		
英文名	Outline of Law (Contemporary Law II)			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)		
担当教員	太田和 良幸		教員コード	154	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・4時限	授業形態	講義		
学位授与方針との対応	<input type="checkbox"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input type="checkbox"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="checkbox"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="checkbox"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="checkbox"/>	5.学習の過程で発見した課題を探索する		<input checked="" type="checkbox"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	日常生活で遭遇する可能性のある各種の法的事案について、どのように対処したら良いのか具体的な事例に沿って学習することにより、法に親しみ、法の理解を促進する。						
授業の狙い・到達目標	法律や条例についての理解を深め、日常生活で遭遇する事案やマスコミなどで報道される種々の事案について、法の観点から興味を持ち、考えられるようになることを目指す。日常生活に関連する具体的な事例を通して、法に関する基礎的な知識を獲得するとともに、社会問題の解決方法について法的に考察する力を身に付けることができる。						
授業内容のレベル・関連科目	高等学校の社会科学などの知識が必要であり、これらが基礎となる。本授業の履修に当たっては、事前に「日本国憲法」（「現代の法律Ⅰ」）を履修することが望まれる。						
授業外学習（予習・復習）	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組み、レポートにまとめ、授業に持参すること また、毎回授業内容について振り返り（復習し）、これをレポートにまとめ、次回の授業時に提出すること			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	教科書は使用しない。教員作成のレジュメなどを配布する。						
参考書・その他教材	池田真朗・犬伏由子・野川忍他『法の世界へ 第7版』有斐閣アルマ e-Gov法令検索（web上で提供される日本の法令の検索・閲覧システム）						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、採点して返却する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	定期試験（40%）、レポート（30%）、授業への貢献度（30%）で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	授業は、学生の主体的学習（学生間の議論・発表）を重視し、協働で学習を深める。主体的に学習に取り組むこと。 日常生活の中で法について関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。						
科目に関連した教員の実務経験	国家公務員（内閣府、文部科学省、外務省に勤務） 特に国家公務員としての実務経験に基づく授業内容となる授業スケジュール回（学習内容欄）には、★印を付けて下線を引いてある。						
担当教員への連絡方法	質問はE-Mailでも受け付ける。（mail to: ohtawa@aikoku-u.org） 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

授業スケジュール

法学概論（現代の法律Ⅱ）

1回	学習内容 【イントロダクション】 授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 予習 シラバスを熟読して、本授業の概要、授業方法などを理解しておくこと 復習 授業の概要、授業方法などについて振り返りを行うこと
2回	学習内容 社会規範と法の関係並びに法制度の概要について学ぶ。 予習 社会規範の中の法の役割について調べ、理解を得ること 復習 授業内容（法制度の概要）について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
3回	学習内容 多くの人が経験する「婚姻」についてその意味、法的効果を学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 復習 授業内容（婚姻の成立と効力）について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
4回	学習内容 「成年」について、その意味、法的効果を学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 復習 授業内容（青年と未成年）について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
5回	学習内容 住まいを借りた時に生じる諸問題について法的観点から学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 復習 授業内容（住まいと賃貸契約）について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
6回	学習内容 インターネット使用時に遭遇する可能性のある詐欺事案について学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 復習 授業内容（インターネット上の詐欺）について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
7回	学習内容 インターネット上で陥りやすい権利侵害の事案について学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 復習 授業内容（インターネット上の権利侵害）について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
8回	学習内容 情報化社会にあって「情報」の取扱に関して注意すべき点について学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 復習 授業内容（情報公開と個人情報保護）について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
9回	学習内容 ★知的財産権がインターネット上でどのように保護されているかについて学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 復習 授業内容（インターネットと知的財産権）について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
10回	学習内容 消費者契約上でどのように消費者の利益が保護されているかについて学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 復習 授業内容（消費者契約と消費者保護）について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
11回	学習内容 友人間での感情的対立が引き起こすトラブルの法的効果について学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 復習 授業内容（友人間でのトラブル）について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
12回	学習内容 ★各種の迷惑行為と各都道府県が制定する条例との関係について学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 復習 授業内容（迷惑行為と条例）について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
13回	学習内容 自動車運転に関する法制と事故時の責任等について学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 復習 授業内容（自動車運転と責任）について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
14回	学習内容 アルバイトで経験する労働環境と労働法との関係について学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 復習 授業内容（アルバイトと労働法）について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
15回	学習内容 【まとめ】法制度における今日的課題について学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 復習 全15回の授業を振り返り、法制度の今日的課題をとりまとめること

科目名	社会学概論*			科目コード	23020	
英文名	Outline of Sociology			科目区分	【共通教養科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	晨 晃		教員コード	209	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・2時限	授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	我々は社会という客観的な環境の中で生きている。この社会を研究する学問である社会学につき、その基本概念、諸理論、研究分野、また学問の歴史を学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	本講義では、社会学の基礎知識を身に付け、特に人間の相互行為との関係を理解していくことを狙いとして進めたい。社会とは何か、人々の社会行為とは何かについて学び、社会人の自覚性を身に付けられるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	社会学は人と社会の関係に関する学問である。学習を通して社会生活により適応できるような人間になることが重要である。関連科目は特になし。社会学関連では唯一の科目なので、興味のある学生の積極的な受講を希望する。					
授業外学習(予習・復習)	授業の前に教科書を読み、授業後、授業の内容について質問や感想文をまとめて提出する。次回の授業で解答や意見交換を行う。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	富永健一 『社会学講義一人と社会の学』中央公論社					
参考書・その他教材	毎日のニュースに注目すること					
課題に対するフィードバック	教科書の一章ごとに課題を考えさせ、レポートとして提出されたものに解答・解説をする。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	期末レポート(40%)、課題(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日頃から社会の諸事情に関心を持つことが求められる。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to: hayashi@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること					

授業スケジュール

社会学概論

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション——授業の目的と内容、授業の進め方などについて説明する。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること
2回	学習内容 予習 復習	第一章社会学としての社会学 第一節社会学とは何かについて学ぶ。 社会という概念について調べ、理解すること(教科書の第一章第一節を読む) 社会学の定義について振り返り、これをレポートとして提出すること
3回	学習内容 予習 復習	第一章第二節社会学の研究対象について学ぶ。 ミクロ社会、マクロ社会の関係を調べ、理解すること(第一章第二節を読む) 社会と文化、社会と環境の関係について振り返り、レポートを提出すること
4回	学習内容 予習 復習	第一章第三節社会学の研究諸部門について学ぶ。 研究対象と研究方法について調べ、理解すること(第一章第三節を読む) 社会学の研究所部門について振り返り、レポートを提出すること
5回	学習内容 予習 復習	第二章理論社会学 第一節ミクロ社会について学ぶ。 人間の行為について調べ、理解すること(教科書の第二章第一節を読む) 社会学におけるミクロレベルの研究について振り返り、レポートを提出すること
6回	学習内容 予習 復習	第二章第二節マクロ社会学(1)社会システム構造論について学ぶ。 社会システムの諸類型について調べ、理解すること(第二章第二節を読む) 社会構造論の研究について振り返り、レポートを提出すること
7回	学習内容 予習 復習	第二章第三節マクロ社会学(2)社会システム変動論について学ぶ。 社会構造と社会変動の関係について調べ、理解すること(第二章第三節を読む) 社会変動の内容——近代化について振り返り、レポートを提出すること
8回	学習内容 予習 復習	第三章領域社会学と経験社会学 第一節領域社会学について学ぶ。 内包的、外延的領域社会学について調べ、理解すること(第三章第一節を読む) 自分の領域社会学を選べ、レポートを提出すること
9回	学習内容 予習 復習	第三章第二節経験社会学(1)社会調査について学ぶ。 社会学の経験的特性について調べ、理解すること(第三章第二節を読む) 自分の社会調査テーマを選べ、レポートを提出すること
10回	学習内容 予習 復習	第三章第三節経験社会学(2)計量社会学について学ぶ。 調査データの意味、変数などについて調べ、理解すること(第三章第三節を読む) 計量社会学の意義について振り返り、レポートを提出すること
11回	学習内容 予習 復習	第四章社会学史の主要な流れ 第一節前史と社会学第一世代について学ぶ。 西洋と日本の社会学者の第一世代について調べ、理解すること(教科書の第四章第一節を読む) 社会学の発生について振り返り、レポートを提出すること
12回	学習内容 予習 復習	第四章第二節社会学第二世代について学ぶ。 第二世代の社会学者たちについて調べ、理解すること(第四章第二節を読む) 社会学第二世代の理論について振り返り、レポートを提出すること
13回	学習内容 予習 復習	第四章第三節現代社会学の諸潮流について学ぶ。 現代社会学の諸理論について調べ、理解すること(第四章第三節を読む) 現代社会学の諸理論について振り返り、レポートを提出すること
14回	学習内容 予習 復習	まとめ1——ミクロ社会学の理論とマクロ社会学の理論について復習する。 現実問題と理論の関係について調べ、理解すること ニュースに関して、社会学の説明をレポートとして提出すること
15回	学習内容 予習 復習	まとめ2——社会学史の流れについて復習する。 時代と社会学の関係について調べ、理解すること 全15回の授業を振り返り、社会学の研究についての諸課題をとりまとめること

科目名	経済学概論（現代経済入門）			科目コード	23030		
英文名	Outline of Economics (Introduction to Contemporary Economy)			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻（選択）		
担当教員	中村 壘		教員コード	138	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input checked="" type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する		<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	ミクロ経済学は一人ひとりの消費者や一つひとつの企業といったミクロな経済主体から、マクロな市場やそこでの政策効果を分析する学問である。本授業は概論であるため、ミクロ経済学の大枠について講義する。						
授業の狙い・到達目標	ミクロ経済学の基礎を学習し、経済的なものの見方を獲得することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては入門レベルである。 関連科目：社会科学と人間						
授業外学習（予習・復習）	教科書に沿って授業を進める。したがって予習として指定箇所を事前に読み、復習として授業後に再度読むこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	坂井豊貴(2017)『ミクロ経済学入門の入門』岩波書店						
参考書・その他教材	授業の回によってはレジュメ等を配布することがある。						
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。						
成績評価方法	定期試験(70%)、レポート(30%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	経済に関するニュースや新聞記事に関心を持つこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7						

授業スケジュール

経済学概論（現代経済入門）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2回	学習内容 予習 復習	無差別曲線について 教科書第1章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3回	学習内容 予習 復習	予算線と最適化について 教科書第2章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4回	学習内容 予習 復習	需要曲線について 教科書第3章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5回	学習内容 予習 復習	供給曲線について 教科書第4章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6回	学習内容 予習 復習	市場均衡について 教科書第5章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7回	学習内容 予習 復習	前半で学習したことの確認 第1回から第6回までの授業で学んだことについて、教科書・ノート等を見直すこと 教員の指示に従って、レポートを作成すること
8回	学習内容 予習 復習	外部性について 教科書第6章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9回	学習内容 予習 復習	農業における外部性について レジュメ等をよく読んで、農業における外部性について概要を理解すること 授業内容を振り返ること
10回	学習内容 予習 復習	独占と寡占 教科書第7章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11回	学習内容 予習 復習	リスクと保険 教科書第8章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12回	学習内容 予習 復習	公共財 教科書第9章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13回	学習内容 予習 復習	再分配 教科書第10章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14回	学習内容 予習 復習	後半で学習したことの確認 第8回から第13回までの授業で学んだことについて、教科書・ノート等を見直すこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

科目名	環境学概論（環境行政と福祉行政Ⅰ）			科目コード	23040	
英文名	Introduction of Environmental Studies			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻（選択）	
担当教員	岡庭 義行/栗林 慶		教員コード	159/158	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・1時限	授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	「環境問題」とは、私たちを取り巻くさまざまな事象が複雑に絡みあう問題群であり、環境学とは、これらの問題群の本質を学際的に解明し、その解決を目的とした学問領域の1つである。本講では、環境学を学ぶ上で必要な基礎的概念や思考、対象事例の解説を中心に行う予定である。					
授業の狙い・到達目標	〔到達目標①〕環境問題の現象・発生原因や、その影響等について説明することができる。 〔到達目標②〕資源が有限であることを理解し、地球環境の変化について説明することができる。 〔到達目標③〕グローバル化する国際社会の一員であるという自覚を持ち、気候変動等の国際的課題と政策に関する社会的な動向等について俯瞰的にとらえることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	基礎的知識の習得とともに、身近な環境問題から海外事例まで幅広い視野と柔軟な思考が求められる。また、多様な環境問題が社会や経済に及ぼす影響や、環境影響評価なども解説する予定である。 〔関連科目〕「環境政策学」「環境社会学」「生活環境学」					
授業外学習（予習・復習）	〔事前学習〕シラバスの内容に沿って、自身の関心や疑問を学習ノートに記録し、自己の考えを醸成することが望ましい。学習ノートは箇条書きでも概念図でも、自身に合った自由な形式でよい。 〔事後学習〕事前にノートにまとめた事項と、講義を受けた後の考えを比較するなどして振り返り、理解の深化に努めること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	特になし。事前もしくは講義中に適宜プリントを配布する。					
参考書・その他教材	・環境省『環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』(PDF) ・北川秀樹・増田啓子著『新版はじめての環境学』法律文化社(2018) ・京都大学で環境学を考える研究者たち『環境学-21世紀の教養-』朝倉書店(2014)					
課題に対するフィードバック	筆記試験、小レポート、リアクションペーパーにはコメントを付けて返却する。					
成績評価方法	・到達目標①②③に関する筆記試験(70%) ・到達目標②③に関する小レポート・リアクションペーパー(20%) ・講義の参加状況(10%)					
成績評価基準	授業の狙いにおける学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	毎回の講義において、自身なりの課題設定、具体的な課題解決を意識すること。環境問題にかかわる課題は社会や経済にも影響を及ぼすため、複眼的かつ微視的な視野を持ちながら学習することが期待される。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

授業スケジュール

環境学概論（環境行政と福祉行政Ⅰ）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー環境問題の同時代性ー シラバスを読み、自己の関心事や疑問点、身近で起きている問題との関連などをイメージしておく。 配布物やガイダンスの内容を復習すること。環境問題について自身なりの課題設定を行うこと。
2回	学習内容 予習 復習	環境問題と持続可能な開発 環境問題と持続可能な開発との関係について予め調べておくこと。 配布物、板書やスライド等を復習し、環境問題と持続可能な開発について理解を深める。
3回	学習内容 予習 復習	日本の環境問題の歴史 公害問題と対策 公害問題が、日本の環境、地域住民、社会にどのような影響を及ぼしたのかを調べておく。 配布物、板書やスライド等を復習し、新たな発見やさらに調べてみたい事項について振り返る。
4回	学習内容 予習 復習	世界の環境問題の歴史「共通だが差異ある責任」、環境移民 世界で起きている環境問題を概観しておく。矛盾や対立の視点があることにも目を向けておくこと。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
5回	学習内容 予習 復習	身近な環境問題① 消費行動と環境問題 プラスチックごみ、ファストファッション、食品ロス 私たちの消費行動がいかなる環境影響を及ぼしているかについて調べておくこと。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
6回	学習内容 予習 復習	身近な環境問題② 環境問題をめぐる市民の意識と行動 環境問題をめぐる市民の意識(環境意識・世論調査等)と実際の行動等について事例を調べる。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
7回	学習内容 予習 復習	環境問題と政策 地域の環境政策から地球規模の環境政策へ 日本の環境問題への政策がどのように変遷していったかについて調べる。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
8回	学習内容 予習 復習	社会と環境問題 環境問題の影響・被害の社会的構造、環境教育、被害者救済 環境問題を社会的側面から捉えるとどういうことかについて事前学習を行う。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
9回	学習内容 予習 復習	経済と環境問題 企業の環境配慮 働き方改革 企業の環境対応やその効果、働き方改革による環境への影響について調べる。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
10回	学習内容 予習 復習	ジェンダー平等と環境問題 自然災害・環境問題と防災 環境問題がジェンダー平等を損なう恐れのある事例について調べる。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
11回	学習内容 予習 復習	地域・コミュニティの取り組み事例 廃棄物問題、ブランド米 まちづくりの実践において、環境への配慮が認められる事例を収集しておくこと。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
12回	学習内容 予習 復習	環境政策 政府、自治体の役割 ガバナンス 環境問題に対処するための立案・課題、法整備などについて事前学習を行う。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
13回	学習内容 予習 復習	環境影響評価手法 エコロジカルフットプリント 環境問題を数値化する試みにどのようなものがあるのか、その歴史も含めて事前学習を行う。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
14回	学習内容 予習 復習	SDGsと環境問題、脱炭素社会へ向けて 再生可能エネルギー 再生可能エネルギーにおける社会の取り組みや、多様な意見や見解があることを調べておくこと。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
15回	学習内容 予習 復習	環境・経済・社会の諸課題の統合的解決とは SDGsやパリ協定と、環境・経済・社会の諸課題を統合的に解決することの関係性を概観する。 講義内で解説した諸課題についての具体的取組について復習したうえで講義の総括を行う。

科目名	公共政策学（現代政治入門）			科目コード	23050		
英文名	Study of Public Policy and Social Governance			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻（必修）		
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="checkbox"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input type="checkbox"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="checkbox"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="checkbox"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input checked="" type="checkbox"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する		<input type="checkbox"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	公共政策とは、社会で解決すべきと認識された諸問題に対して、具体的な方向性と手続きを浮揚させながら、その解決に向けて取り組むものである。本講では、公共政策・公共政策学の歴史と理論を概観するとともに、具体的な公共政策について事例解説を試みるものである。						
授業の狙い・到達目標	[到達目標①] 公共政策のその歴史と成立の背景について自らの言葉で説明することができる。 [到達目標②] 公共政策の構造と特徴について講義で解説した用語により説明することができる。 [到達目標③] 身近な公共的課題を探り、その背景と解決に向けて科学的に思考できる。						
授業内容のレベル・関連科目	私たちの社会生活に存在する公共政策について関心を払うとともに、その問題群が「社会で解決すべき」と認識された背景や事象などについて探求する姿勢が期待される。家族・ジェンダー、環境、教育、就労、貧困、医療福祉、地域経済などの関連領域と併せて学ぶことが望ましい。						
授業外学習（予習・復習）	[事前学習] 新聞やニュースなどを活用して自身の社会生活における将来の公共政策の課題の発見・発掘に努める。 [事後学習] 各テーマで学んだことを振り返り、自己の生活における具体的な政策課題と重ね合わせながら、その解決策を構想する。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	・秋吉貴雄他『公共政策学の基礎（第3版）』有斐閣（2020） ・秋吉貴雄『入門 公共政策学』中央公論新社（2021） ・笠原英彦他『公共政策の歴史と理論』ミネルヴァ書房（2013）						
課題に対するフィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付けて解説する。						
成績評価方法	・課題レポート[到達目標①②③]（50%） ・小課題・リアクションペーパー[到達目標②③]（40%） ・講義への参加状況（10%）						
成績評価基準	授業の狙いにおける学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	公共政策が解決に取り組む政策課題の多くは複雑で、立場や考え方の違いにより適切に問題と認識されなかったり（主観性）、他の問題と相反する関係となることがあります（相反性）。これらの課題を客観的に見つめていく姿勢が学びのスタートラインにあることを理解しておこう。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールでの質問（okaniwa@aikoku-u.org）、またはオフィスアワー（新年度に掲示）。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。						

授業スケジュール

公共政策学（現代政治入門）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション — 公共政策とは何か — シラバスを精読し講義の概要と方法について確認し、社会生活における諸課題について調べる。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2回	学習内容 予習 復習	公共政策の誕生と基本構造 政策科学の歴史を概観し、公共政策の誕生とその基本構造について調べておく。 公共政策の歴史とその成立背景を振り返り、その基本構造について理解を深める。
3回	学習内容 予習 復習	公共政策学の成立 科学としての公共政策学の成立背景やその分析的枠組み（理論、方法、事例等）について調べる。 政策科学から公共政策学への移行と背景を振り返り、科学としての公共政策学の理解を深める。
4回	学習内容 予習 復習	公共政策における2つの知識体系 公共政策に活用される知識と公共政策を分析する知識の違いについて調べる。 「inの知識」と「outの知識」をそれぞれ振り返り、公共政策の知識体系について理解を深める。
5回	学習内容 予習 復習	「問題」の発見とフレーミング、構造分析 公共政策の対象となる問題が発見される過程と、これらの問題群の分析方法等について調べる。 社会における問題発見の背景と事例を振り返り、問題設定のプロセスについて理解を深める。
6回	学習内容 予習 復習	公共政策の手段と設計、社会調査 公共政策を設計するための社会調査の技法や法整備を含めた問題解決手段について調べる。 具体的な社会調査や設計事例を振り返り、公共政策の手段と設計に関する理解を深める。
7回	学習内容 予習 復習	公共政策における合理的意思決定とアクター理論 公共政策の意思決定の過程とそれらに関わるアクター間の連携と調整について調べる。 公共政策における合理的意思決定とアクター理論について振り返り、体系的な理解を深める。
8回	学習内容 予習 復習	利益調整と規範的判断 公共政策を設計・決定する過程で生じることのある利益調整と規範的判断について調べる。 公共政策の意思決定過程で生じる利益調整と規範的判断について振り返り、知識を整理する。
9回	学習内容 予習 復習	公共政策の実施と知識の多元性 公共政策の実施の導線デザインや「現場地（実践知）」を含む知識の多元性について調べる。 公共政策の実施と知識の多元性について調べたことや講義内容を復習し、理解を深める。
10回	学習内容 予習 復習	公共政策の評価と改善 今後の改善のための公共政策評価の種類と体系について調べる。 公共政策の評価手法と改善過程、それに伴う情報の透明化、政策への理解等の要点を捉える。
11回	学習内容 予習 復習	事例研究① 「男女共同参画」 日本の「男女共同参画社会基本法」と「女性活躍推進法」について事前に通読しておくこと。 男女平等、女性活躍、多様な性の尊重について振り返り、その表現と課題に関して理解を深める。
12回	学習内容 予習 復習	事例研究② 「文化芸術振興」 あらかじめ配布する日本の文化芸術振興に関する資料（文化庁文書）を通読しておくこと。 事例解説を振り返り、日本の文化芸術振興に関する計画・法令や施策に関して理解を深める。
13回	学習内容 予習 復習	事例研究③ 「環境保護」 自然環境の保全や野生動物・天然記念物の保護等の事例について事前に調べておくこと。 事例解説を振り返り、自然環境を保護保全するための公共政策について理解を深める。
14回	学習内容 予習 復習	事例研究④ 「教育振興とSociety 5.0」 日本の「教育振興基本計画」と「生涯学習振興法」について事前に通読しておくこと。 事例解説を振り返り、日本の教育振興に資する法令や施策に関して理解を深める。
15回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括 — 公共政策の時代 — これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心や社会生活上の課題に接続させ今後の学びを発展させていくこと。

科目名	福祉政策学（生活福祉論）			科目コード	23060		
英文名	Welfare Policy Studies (Life Welfare)			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻（選択）		
担当教員	太田和 良幸		教員コード	154	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探索する		<input checked="" type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	健康・医療、子ども・子育て、福祉・介護、年金、労働者保護などの福祉行政領域における行政の役割とその実際について、具体的事例に即して学ぶ。						
授業の狙い・到達目標	福祉政策(行政)の各領域ごとに、それぞれの特徴について理解を深めるとともに、当該領域での課題を明らかにする。 福祉の観点から社会制度を理解するとともに、生涯にわたり必要に応じ自ら行動できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	必要とする先修科目はないが、高等学校の社会科などの知識が必要であり、これらが基礎となる。 関連する科目としては、「社会福祉論」、「児童福祉論」などがある。						
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組み、レポートにまとめ、授業に持参すること また、毎回授業内容について振り返り(復習し)、これをレポートにまとめ、次回の授業時に提出すること			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	教科書は使用しない。教員作成のレジュメなどを配布する。						
参考書・その他教材	講義内で適宜紹介する。						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、採点して返却する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	授業は、学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学習を深める。 主体的に学習に取り組むこと。 日頃から社会の諸事情に関心を持つことが求められる。						
科目に関連した教員の実務経験	国家公務員(内閣府、文部科学省、外務省に勤務) 特に国家公務員としての実務経験に基づく授業内容となる授業スケジュール回(学習内容欄)には、★印を付して下線を引いてある。						
担当教員への連絡方法	質問はE-Mailでも受け付ける。(mail to: ohtawa@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

授業スケジュール

福祉政策学（生活福祉論）

1回	学習内容 【イントロダクション】 授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読して、本授業の概要、授業方法などを理解しておくこと 予習 授業の概要、授業方法などについて振り返りを行うこと 復習
2回	学習内容 【福祉行政とは】 福祉行政とはどのような行政なのかについて学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
3回	学習内容 【医療保険制度】 病気になった時に必要な医療保険制度について学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
4回	学習内容 【障害者福祉制度】 障害者を支援する制度について学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
5回	学習内容 【高齢者福祉・介護制度】 高齢者の福祉・介護制度、生き甲斐作りなどについて学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
6回	学習内容 【生活保護制度】 生活に困っている人々への支援制度などについて学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
7回	学習内容 【貧困対策制度】 貧困対策、子どもの貧困対策などについて学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
8回	学習内容 【外国人に対する福祉施策】 外国人との共生施策、就労施策などについて学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
9回	学習内容 【健康管理施策】 受動喫煙対策など健康で衛生的な生活を確保するための施策について学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
10回	学習内容 【年金制度】 国民年金制度、厚生年金制度など年金制度について学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
11回	学習内容 ★【子ども・子育て支援制度】 保育所の整備、児童手当など子ども・子育て支援の制度について学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
12回	学習内容 ★【嫌がらせ対策】 いじめ、虐待、ハラスメント、ストーカーなどの対策について学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
13回	学習内容 ★【子どもの健全育成施策】 自殺・引きこもり対策、有害環境対策などについて学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
14回	学習内容 【労働者保護制度】 非正規労働対策、最低賃金対策、雇用機会均等施策などについて学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
15回	学習内容 【まとめ】 福祉行政の今日的課題について学ぶ。 予習 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 復習 全15回の授業を振り返り、福祉行政の今日的諸課題についてとりまとめること

科目名	環境政策学（環境行政と福祉行政Ⅱ）			科目コード	23070	
英文名	Environmental Policy Studies			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻（選択）	
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・1時限	授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	環境政策とは、環境問題を解決するための手段（methodology）である。本講は、環境政策の歴史や基礎的概念、理念・目的について学び、特に、国内外における環境問題の事例考察と、その解決のみならず、これから求められる環境政策についても考究することを目的としている。					
授業の狙い・到達目標	〔到達目標①〕環境政策の目標、代表的な政策、政策主体について説明することができる。 〔到達目標②〕環境問題と社会の関係性について、多層的な理解に基づき説明することができる。 〔到達目標③〕環境問題の広汎なステークホルダーの責任と役割について説明することができる。					
授業内容のレベル・関連科目	身近な環境問題の原因や背景とともに、その解決、予防に関心を持つことが期待される。環境問題の歴史とその同時代性を学び、環境政策の具体的な手続きと原則を理解する。「環境学概論」と併せて学習することで、環境政策の課題と可能性について展望することが望ましい。					
授業外学習（予習・復習）	〔事前学習〕シラバスを読み、該当項目について予習するとともに、日頃からニュース・新聞等における環境問題に関する記事・情報について収集しておくことが望ましいこと。 〔事後学習〕振り返りシートを作成し、関心のある問題や事項について各自さらなる理解の深化に努めること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	特になし。事前もしくは講義中にプリントを適宜配布する。					
参考書・その他教材	・竹本和彦編『環境政策論講義』東京大学出版会（2020） ・勝田悟『環境政策の変遷』中央経済社（2019） ・西澤栄一郎・喜多川進編著『環境政策史』ミネルヴァ書房（2017）					
課題に対するフィードバック	課題レポート、小レポート、提出された振り返りシートにはコメントを付して返却する。					
成績評価方法	・到達目標①②③に関する課題レポート（60％）、 ・到達目標②③に関する小テスト・振り返りシート（30％）、 ・講義への参加状況（10％）					
成績評価基準	授業の狙いにおける学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	環境政策の事例を、目的、手法、主体について体系的に理解すること。特に、環境政策がどのようなファクト（fact）に基づいて立案、実践、評価されているのか、日頃の探求が求められる。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問（okaniwa@aikoku-u.org）、またはオフィスアワー（新年度に掲示）。授業終了後に、直接聞くことも可。					

授業スケジュール

環境政策学（環境行政と福祉行政Ⅱ）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション ーなぜ環境政策が必要なのかー シラバスを精読し、講義の概要と方法について確認しておくこと。 講義の目的や内容について確認し、受講に当たっての目的と展望を深めること。
2回	学習内容 予習 復習	環境政策とは何か 環境政策の目的と原則 環境政策とは何か、わが国ではどのように実施されてきたかについて調べ、概観しておくこと。 環境政策の目的と原則について振り返り、政策の背景にある環境問題について理解を深めること。
3回	学習内容 予習 復習	環境政策の歴史と代表的手法 環境政策の歴史・変遷を時系列で概観し、その代表的手法について調べておくこと。 環境政策の発達とその背景、及び環境政策の代表的な手法について説明できるようにすること。
4回	学習内容 予習 復習	環境政策に関する制度と施策 環境基本法 環境基本計画 環境政策に関する制度や具体的な施策と、その主体（国、地方自治体など）を調べておくこと。 環境政策に関する制度や施策を体系的に説明できるようにすること。
5回	学習内容 予習 復習	我が国の環境政策と国際的な動向の関わり 我が国の環境政策と、国外の環境政策との関わりについて調べておくこと。 地球規模での問題に拡大した国内外の環境問題と環境政策との関わりについて復習しておくこと。
6回	学習内容 予習 復習	温室効果ガス・気候変動と環境政策 京都議定書、パリ協定 温室効果ガスの排出状況や気候変動、これらに対する国内外の取り組みについて概観しておく。 京都議定書が我が国の環境政策に与えた影響やパリ協定との違いについて説明することができる。
7回	学習内容 予習 復習	不確実性とポリシーミックス 環境問題の不確実性から、複数の政策手段の組み合わせによる課題解決の活用について調べる。 複数の政策手段による相乗効果について復習しておくこと。
8回	学習内容 予習 復習	海外・国内の事例 アラスカの原油流出事故 経済への影響 先住民に与える影響 アラスカにおける原油流出事故や、先住民にどのような影響を与えたかについて調べておくこと。 アラスカのみならず、環境被害が当該地域や先住民に経済的・文化的に与えた影響を復習する。
9回	学習内容 予習 復習	廃棄物・循環型社会と環境政策 プラスチックごみ、食品ロス、エコカル消費など 廃棄物に関する環境政策について、身近な事例や海外事例などを調べておくこと。 廃棄物に関する今日の諸課題について振り返り、身近な視点だけでなく大局的な視点も持つこと。
10回	学習内容 予習 復習	生物多様性と環境政策 里地里山、エコツーリズム 身近にある里地里山や、エコツーリズムと生物多様性との関わりについて調べておく。 講義内で解説した事例を復習し、生物多様性の保全に向けた取り組みについて理解を深める。
11回	学習内容 予習 復習	まちづくりと環境政策 都市の環境問題、低炭素社会、まちづくり 都市型の環境問題にはどのようなものがあるか、低炭素社会とは何かについて調べておくこと。 講義内で配布したプリントの事例を復習しつつ、改めて多様な事例を収集することが望ましい。
12回	学習内容 予習 復習	自然災害と環境政策 エネルギー政策 国内外のエネルギー政策の現状、自然災害と再生可能エネルギーについても調べておくこと。 エネルギー政策に関する多様な議論を把握し、その変容や、現状及び課題について復習する。
13回	学習内容 予習 復習	ジェンダーと環境政策 気候変動によるジェンダー不平等という観点からの環境政策 気候変動による災害リスクがもたらすジェンダー問題・ジェンダー不平等について調べておく。 ジェンダー・エンパワメントを阻害しない環境政策についての問題意識を持ち、復習すること。
14回	学習内容 予習 復習	SDGsの達成に向けた環境政策 環境影響評価 SDGsに関連する環境対策やその評価手法、SDGsの実現可能性や議論にも目を向けること。 SDGsそのものや環境対策に関する多様な議論を踏まえ、自身なりの問題意識を持つこと。
15回	学習内容 予習 復習	漂流する環境政策の未来 これまでの講義を振り返り、今後の環境政策の在り方について問題意識を持ち、課題設定を行う。 全体を振り返り、地域的かつ大局的な視点から、環境政策の意義や諸課題を説明できること。

科目名	環境社会学*			科目コード	23080	
英文名	Environmental Sociology			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	中村 壘	教員コード	138	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・1時限	授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探索する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	本授業は、近年大きく取り上げられ、また多くの人が関心を持っているプラスチックごみに注目する。なぜ大量のプラスチックごみが発生するのか、誰が排出者なのか、海に流れ込んだプラスチックごみはどうなるのか、プラスチックごみを減らすにはどうすればよいのか、について講義する。					
授業の狙い・到達目標	プラスチックごみを通して現代社会の特徴を理解し、これからの社会のあり方を考えることができるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては基本レベルである。 関連科目:社会経済史					
授業外学習(予習・復習)	教科書に沿って授業を進める。したがって予習として指定箇所を事前に読み、復習として授業後に再度読むこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	中嶋亮太(2019)『海洋プラスチック汚染』岩波書店					
参考書・その他教材	枝廣淳子(2019)『プラスチック汚染とは何か』岩波書店 授業の回によってはレジュメ等を配布することがある。					
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。					
成績評価方法	定期試験(70%)、リアクションペーパー(30%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	環境に関するニュースや新聞記事に関心を持つこと。					
科目に関連した教員の業務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7					

授業スケジュール

環境社会学

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2回	学習内容 予習 復習	わたしたちの生活とプラスチック 教科書の第1章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3回	学習内容 予習 復習	大量生産と大量廃棄 教科書の第2章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4回	学習内容 予習 復習	リサイクルの実態 教科書の第2章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5回	学習内容 予習 復習	海洋ゴミの排出国 教科書の第3章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6回	学習内容 予習 復習	プラスチックごみの大きさ 教科書の第3章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7回	学習内容 予習 復習	プラスチックごみの発生要因 教科書の第4章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8回	学習内容 予習 復習	プラスチックごみの行き先 教科書の第5章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9回	学習内容 予習 復習	行方不明のプラスチック 教科書の第6章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10回	学習内容 予習 復習	海洋生態系と人への影響Ⅰ(プラスチックを食べるものたち) 教科書の第7章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11回	学習内容 予習 復習	海洋生態系と人への影響Ⅱ(人と社会への影響) 教科書の第7章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12回	学習内容 予習 復習	海にプラスチックを漏れ出させない方法Ⅰ(プラスチックを海から除去できるか) 教科書の第8章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13回	学習内容 予習 復習	海にプラスチックを漏れ出させない方法Ⅱ(リデザイン) 教科書の第8章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14回	学習内容 予習 復習	海にプラスチックを漏れ出させない方法Ⅲ(バイオプラスチック) 教科書の第8章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

科目名	生活環境学（生活環境学概論）			科目コード	23090		
英文名	Living Environment Studies (Outline of Living Environmental Science)			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻（選択）		
担当教員	市川 遥夏		教員コード	134	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	生涯にわたって健康で豊かな生活を営むことは人類共通の願いであり、人々の健康にとってより良い環境の維持と公衆衛生の向上のために、食環境を中心とした生活を取り巻く環境と食の安全性についての基礎を学ぶ。						
授業の狙い・到達目標	食と環境の関係や食の安全を考える上で基本となる科学的な考えを理解できるようになる。食生活、水生活さらに廃棄物などにおける身近な生活環境について関心を持ち、理解することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	現存する生活環境課題における仕組みについて理解し、生活環境への改善および工夫の仕方について自ら考え、実践することが大切である。						
授業外学習（予習・復習）	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組むこと。授業後、各回の講義内容を十分に復習し、専門用語や内容について自主的に調べ、理解を深めること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	教科書を使用せず、資料を配布。						
参考書・その他教材	及川紀久雄『新環境と生命』三共出版；大塚譲ら『社会・環境と健康』東京化学同人						
課題に対するフィードバック	講義中の小テストは、その場で解説する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	発表・レポート(70%)、小テスト(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。不明な点は講義終了後に担当教員に質問する。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(ichikawa@aikoku-u.org)						

授業スケジュール

生活環境学（生活環境学概論）

1回	学習内容 予習 復習	授業の目的と内容、授業の進め方、食と環境の関係などについて学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること。
2回	学習内容 予習 復習	日本における環境問題などについて学ぶ。 環境基本法について調べること。 授業プリントを用いて日本における環境問題について振り返り、理解を深めること。
3回	学習内容 予習 復習	人間と環境・食料などについて学ぶ。 エルニーニョ/ラニーニャ現象について調べること。 授業プリントを用いて食料不足原因および食料自給率について振り返り、理解を深めること。
4回	学習内容 予習 復習	食品中の汚染物質対策について学ぶ。 「ALARAの原則」について調べること。 授業プリントを用いて食品中の汚染物質対策について振り返り、理解を深めること。
5回	学習内容 予習 復習	食中毒対策について学ぶ。 食中毒の危険について調べること。 授業プリントを用いて食中毒対策および予防について振り返り、理解を深めること。
6回	学習内容 予習 復習	食品に残留する農薬の対策について学ぶ。 「一日摂取許容量」、「ポジティブリスト制度」について調べること。 授業プリントを用いて食品残留農薬の対策について振り返り、理解を深めること。
7回	学習内容 予習 復習	食品添加物の安全性について学ぶ。 マーケットバスケット方式と生産・流通・使用量調査方式について調べること。 授業プリントを用いて食品添加物の機能および安全性について振り返り、理解を深めること。
8回	学習内容 予習 復習	遺伝子組換え食品の安全性について学ぶ。 日本で認められている遺伝子組み換え作物について調べること。 授業プリントを用いて遺伝子組換え食品の安全性について振り返り、理解を深めること。
9回	学習内容 予習 復習	水環境、浄水処理などについて学ぶ。 原水の特徴について調べること。 授業プリントを用いて各浄水処理法について振り返り、理解を深めること。
10回	学習内容 予習 復習	生活排水対策などについて学ぶ。 活性汚泥の機能について調べること。 授業プリントを用いて下水処理および排水処理について振り返り、理解を深めること。
11回	学習内容 予習 復習	大気汚染と健康について学ぶ。 大気汚染物質の種類について調べること。 授業プリントを用いて大気汚染の仕組みおよびその対策について振り返り、理解を深めること。
12回	学習内容 予習 復習	室内環境と健康について学ぶ。 シックハウス症候群について調べること。 授業プリントを用いて室内環境と健康との関係について振り返り、理解を深めること。
13回	学習内容 予習 復習	廃棄物の対策について学ぶ。 マニフェスト制度について調べること。 授業プリントを用いて廃棄物の種類と処理法について振り返り、理解を深めること。
14回	学習内容 予習 復習	3R活動などについて学ぶ。 3Rの具体的な活動について調べること。 授業プリントを用いて「循環型社会」について振り返り、理解を深めること。
15回	学習内容 予習 復習	課題発表、これまでの内容を振り返る。 今までの授業内容について見直し、復習をしてくること。 授業内容について理解を深めること。

科目名	農業経済学*			科目コード	23100		
英文名	Agricultural Economics			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)		
担当教員	中村 塑		教員コード	138	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける				2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input checked="" type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う				4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する		<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	現代における農業・農村・食料の問題について講義する。わたしたちが生きる「グローバル社会」において、毎日の食事は日本の農業だけではなく、世界の食料事情や農産物貿易とも深い関わりを持っている。わたしたちが置かれている社会的環境を、食と農から学んでいく。						
授業の狙い・到達目標	農業・農村・食料についてバランスのとれた知識を身につけ、自分なりの意見や問題の解決策を持てるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては基本レベルである。 関連科目:経済学概論						
授業外学習(予習・復習)	教科書に沿って授業を進める。したがって予習として指定箇所を事前に読み、復習として授業後に再度読むこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	生原寺眞一(2018)『新版 農業がわかると、社会のしくみが見えてくる』家の光協会						
参考書・その他教材	明治大学農学部食料環境政策学科編(2011)『食料環境政策学を学ぶ』日本経済評論社 授業の回によってはレジュメ等を配布することがある。						
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。						
成績評価方法	定期試験(70%)、リアクションペーパー(30%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	農業・農村・食料に関するニュースや新聞記事に関心を持つこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7						

授業スケジュール

農業経済学

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2回	学習内容 予習 復習	人類の基礎的な食料 教科書の1限目(第1章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3回	学習内容 予習 復習	所得水準の向上と穀物 教科書の1限目(第1章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4回	学習内容 予習 復習	世界の栄養不足人口 教科書の2限目(第2章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5回	学習内容 予習 復習	途上国農業の特徴 教科書の2限目(第2章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6回	学習内容 予習 復習	先進国の農業保護政策 教科書の2限目(第2章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7回	学習内容 予習 復習	食料自給率低下の原因 教科書の3限目(第3章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8回	学習内容 予習 復習	食料安全保障 教科書の3限目(第3章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9回	学習内容 予習 復習	集約型農業の特徴 教科書の4限目(第4章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10回	学習内容 予習 復習	土地利用型農業の課題 教科書の4限目(第4章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11回	学習内容 予習 復習	農業の多面的機能 教科書の5限目(第5章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12回	学習内容 予習 復習	農村コミュニティの共同力 教科書の5限目(第5章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13回	学習内容 予習 復習	豊かな食生活 教科書の5限目(第5章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14回	学習内容 予習 復習	農業・農村との接点 教科書の5限目(第5章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

科目名	文化人類学（文化人類学入門）			科目コード	23110		
英文名	Cultural Anthropology (Introduction to Cultural Anthropology)			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)		
担当教員	山崎 寿美子		教員コード	147	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探求する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	慣習や価値観が異なる文化について事例を挙げて検討しながら、自分たちの「あたりまえ」を捉え直していく。身近な営みである食をテーマに、その文化的なありかた、食と技術、現代の食事情等について考える。四街道地域を中心にフィールドワークも行う。						
授業の狙い・到達目標	履修生の身近なテーマから文化人類学の基本的な考え方を学び、異文化への関心を深める。普段あまり意識しない自文化について、客観的に捉え直すことができるようになる。内容を覚えるのではなく、履修生それぞれが自分なりに意見をもてるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	関連する論文等を読解できる日本語力および英語力を必要とする。ある事象について自分なりの意見を書いたり述べてたりできる。(関連科目)社会調査法、地域ブランド論、循環型社会論						
授業外学習(予習・復習)	常識や固定観念にとらわれず、自文化や異文化について、自分の意見をもっておこう努めること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	指定しない。						
参考書・その他教材	松村圭一郎『うしろめたさの人類学』ミシマ社、2017年。Ingold, Tim. <i>Anthropology and/as Education</i> . Routledge. 2017.						
課題に対するフィードバック	各回に出した課題に対しては、翌週の授業でコメントをする。						
成績評価方法	レポートなどの課題(50%)、フィールドワークを含む授業への積極的な参加(50%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	フィールドワークを実施することが複数回ある。本科目を履修するには「循環型社会論」も合わせて受講すること。また、前期に「社会調査法」および「地域ブランド論」を受講していることが望ましい。						
科目に関連した教員の業務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。						

授業スケジュール

文化人類学（文化人類学入門）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション—授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2回	学習内容 予習 復習	異文化とカルチャーショックについて考える。 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
3回	学習内容 予習 復習	人類学のとフィールドワークについて学ぶ。 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
4回	学習内容 予習 復習	『うしろめたさの人類学』(松村圭一郎著)を読む①人類学的な考え方 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、課題に取り組み提出する。
5回	学習内容 予習 復習	『うしろめたさの人類学』(松村圭一郎著)を読む②人付き合いについて考える 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
6回	学習内容 予習 復習	これまでの振り返り:『うしろめたさの人類学』から学んだことを議論する これまでの資料を読み返し、自分の意見をまとめてくること 他の受講生の意見をふまえて、自分の考えをまとめること
7回	学習内容 予習 復習	フィールドワーク①四街道市内の街歩き 事前に配布する資料を読んでおくこと 街歩きで気が付いたことをまとめて提出すること
8回	学習内容 予習 復習	フィールドワーク②四街道市の食と農 事前に配布する資料を読んでおくこと 聞き取り調査で得られた情報をまとめて提出すること
9回	学習内容 予習 復習	映画「いのちの食べ方」を鑑賞する。 事前に配布する資料に目を通しておくこと。 映画を見て、食の現代的な問題について意見を書き、提出すること。
10回	学習内容 予習 復習	食の現代的な問題についてのディスカッション 映画の内容を振り返り、議論の要点をまとめてくること。 他の受講生の意見を聞いて、自分の意見をまとめレポートを提出すること。
11回	学習内容 予習 復習	食の人類学①食べ物の保存に関する在来地 事前に配布する資料を読んでおくこと 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
12回	学習内容 予習 復習	食の人類学②食文化の継承 事前に配布する資料を読んでおくこと 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
13回	学習内容 予習 復習	フィールドワーク③四街道市近郊の食文化 事前に配布する資料を読んでおくこと 聞き取り調査で得られた情報をまとめて提出すること
14回	学習内容 予習 復習	フィールドワーク④千葉県県の保存食 事前に配布する資料を読んでおくこと 聞き取り調査で得られた情報をまとめて提出すること
15回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 配布資料を読み返し、全ての回の授業内容を振り返っておくこと。 全体を振り返り、授業の論点をまとめておく。

科目名	地方自治論*			科目コード	23120	
英文名	Study of Local Government			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・2時限	授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う
	◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う
授業概要	かつて英国のジェームズ・プライズは「地方自治は民主主義の学校である」と述べた。その後、社会の進展とともに、地方自治はその姿を大きく変貌させてきた。本講では、地方自治の歴史や事例の解説を通して、自治体の主体として私たちが担うべき役割と責任について考察する。					
授業の狙い・到達目標	[到達目標①] 地方自治の歴史について講義で解説した用語を用いて説明することができる。 [到達目標②] 公共サービスや総合計画など自治体の業務について説明することができる。 [到達目標③] 地域住民が分担すべき領域とその責任・課題等について説明することができる。					
授業内容のレベル・関連科目	地方自治では、その地域で暮らす住民すべてが「主人公」である。日常生活で感じる疑問や気づきを大切にして、私たちが取り巻く制度やシステムに関心を持つことが期待される。公共政策、法制度、まちづくり、生涯学習、観光、福祉などの関連領域を併せて学習することが望まれる。					
授業外学習(予習・復習)	[事前学習] 自身が居住する自治体について理解を深め、地方自治に関する自己の社会経験等を記録していくことが望ましい。 [事後学習] 講義で解説したテーマを具体的な自治体の活動や計画・施策に接続させること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	・大森彌・大杉覚『これからの地方自治の教科書(改訂版)』第一法規出版(2021) ・北村亘他『地方自治論 -2つの自律性のはざままで-』有斐閣(2020) ・福島康仁編『地方自治論(第2版)』弘文堂(2018)					
課題に対するフィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。					
成績評価方法	・課題レポート[到達目標①②③](50%) ・小課題・リアクションペーパー[到達目標②③](40%) ・講義への参加状況(10%)					
成績評価基準	授業の狙いにおける学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	地方自治とは、自治体の制度やシステムだけでなく、住民自身による意思決定の過程とその問題群を包含しています。地方自治の当事者としての自覚をもって主体的に学ぶことが期待されます。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

授業スケジュール

地方自治論

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション —地方自治とは何か— シラバスを精読し講義の概要と方法について確認し、自身の居住する自治体について調べる。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2回	学習内容 予習 復習	日本における地方自治の歴史 明治期以降の日本の地方自治制度の歴史と社会変化に伴う現代的課題の誕生について調べる。 講義を振り返り、自身の居住する自治体の歴史と成り立ちについて理解を深める。
3回	学習内容 予習 復習	「国」と地方自治 戦後憲法で保障された日本の地方自治の特徴を学び、国家と地方自治の関係性を調べる。 講義を振り返り、国家と地方自治の関係の歴史とその課題について理解を深める。
4回	学習内容 予習 復習	自治体のしくみ 身近な自治体の執行機関の種類や役割、財政と税制度の課題等について調べる。 講義内容を自身の居住する自治体の機構と活動に接続させながら、さらなる理解を深める。
5回	学習内容 予習 復習	地方自治の計画 身近な自治体の多様な計画と施策について学び、先進的な政策事例について調べる。 講義内容を自身の居住する自治体の計画と実施に接続させながら、さらなる理解を深める。
6回	学習内容 予習 復習	地方議会と選挙制度 地方自治における二元代表制、首長のリーダーシップ、議会の役割、選挙制度等について調べる。 地方議会と選挙制度に関して、地方自治における役割、被選挙権等の選挙制度等を説明できる。
7回	学習内容 予習 復習	コミュニティの自治と住民参加 地方自治法に定められた住民直接請求権や住民参加の事例について事前に調べておく。 まちづくりに地域住民が積極的に参加できるようになった歴史的背景について理解を深める。
8回	学習内容 予習 復習	拡張する公共サービスと「自助・共助・公助」の課題 拡張する公共サービスや地方の政策課題を誰がどのように支えるべきか自らの考えをまとめておく。 公共サービスが円滑に機能するための「自助・共助・公助」の連携について説明できる。
9回	学習内容 予習 復習	「新しい公共」と地方自治の協働 「新しい公共」にはどのような種類と活動があるのか事前に調べておくこと。 「新しい公共」と地方自治の協働の事例を振り返り、「自助・共助・公助」の観点からも復習する。
10回	学習内容 予習 復習	事例研究① 「平成の大合併」 「平成の大合併」の背景と特徴とともに、合併を選択しなかった自治体の住民自治について調べる。 地方自治における合併の意味や効果の概略、合併を選択しなかった自治体の事例を説明できる。
11回	学習内容 予習 復習	事例研究② 身近な役場の組織と業務 自身が居住する自治体(区市町村等)の役所・役場の機構とその業務・役割について調べる。 役所・役場の機構と業務・役割について、これからの住民ニーズとの調和という観点からも振り返る。
12回	学習内容 予習 復習	事例研究③ さまざまな公共サービス 上下水道、ごみ、道路、年金・介護、警察と消防など自治体が担う公共サービスについて調べる。 公共サービスとその財源について振り返り、公共サービスをまちづくりの基盤として捉えて理解する。
13回	学習内容 予習 復習	事例研究④ 総合計画と総合戦略 自身が居住する自治体(区市町村等)で策定されている総合計画等について調べておく。 自治体の総合計画と総合戦略の変遷や現在の内容について振り返り、理解を深める。
14回	学習内容 予習 復習	事例研究⑤ 防災と安心安全のまちづくり 私たちがこれまで経験してきた災害と自治体が果たしてきた役割について調べておく。 災害時における自治体の役割、防災計画の策定、情報提供等の役割について振り返る。
15回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括 —「地方」から学ぶ— これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心や社会生活上の課題に接続させ今後の学びを進展させていくこと。

科目名	地域資源論*			科目コード	23130		
英文名	Study of Local Resources and Management			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)		
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探求する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	人口減少社会の時代において「地域資源」は多様でその役割も大きくなりつつある。本講は、さまざまな領域における地域資源の事例を解説しながら、地域資源の管理と活用について理解を深めるものである。						
授業の狙い・到達目標	[到達目標①] 地域資源の管理と活用に関して講義で解説した用語により説明することができる。 [到達目標②] 地域社会に潜在する資源化可能な事象を発掘し説明することができる。 [到達目標③] 地域活性化に資する地域資源の活用を構想できる。						
授業内容のレベル・関連科目	本講の目的は、地域資源に関して、従来の目的や利用と異なる新しい意味や活用を発見することであり、可能な限り、講義の内容とテーマを、まちづくり、共生社会、生涯学習、キャリアデザイン等の学びへ結びつけていくことが期待される。						
授業外学習(予習・復習)	[事前学習] 身近な地域資源を発掘し各回の講義テーマと積極的に結びつけて学習の準備に努めること。 [事後学習] 学習した内容を関連科目の学びや自身の社会生活へ活用していくことに努めること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	特になし。事前もしくは講義中にプリントを適宜配布する。						
参考書・その他教材	・ジョン・フィールド『社会関係資本』明石書店(2021) ・古賀弥生『芸術文化とちいきづくり-アートで人とまちをしあわせに-』九州大学出版会(2020) ・藪谷浩介『里山資本主義-日本経済は安心の原理で動く-』角川書店(2013)						
課題に対するフィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。						
成績評価方法	・課題レポート[到達目標①②③](50%) ・小課題・リアクションペーパー[到達目標②③](40%) ・講義への参加状況(10%)						
成績評価基準	授業の狙いにおける学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	地域資源とは、経済的に価値のあるものばかりではなく、例えば、文化・芸術がその地域住民の絆(きずな)や誇りを醸成することもあり、柔軟な思考と自由なアイデアづくりが期待されます。						
科目に関連した教員の業務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。授業終了後に、直接聞くことも可。						

授業スケジュール

地域資源論

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション ー地域資源とは何かー シラバスを精読し講義の概要と方法について確認しておくこと。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2回	学習内容 予習 復習	地域資源の多様性とマネジメントの論理 現在の地域資源の種類と特徴について調べ、これらを活用事例について調べる。 身近な地域資源を発見し、その資源がどのように活用されているのか調べてみよう。
3回	学習内容 予習 復習	関係人口・交流人口と観光資源 関係人口と交流人口の定義を概観し、観光に活用される地域資源について調べる。 定住人口から関係人口と交流人口へ論点の変遷を振り返り、まちづくりの理解を深める。
4回	学習内容 予習 復習	エネルギー資源と経済開発 石油・ガス、レアアース、再生可能エネルギー 地域に特有なエネルギー資源を調べ、経済開発とその課題について確認しておく。 私たちの社会を支えるエネルギー資源について振り返り、その活用の問題について理解を深める。
5回	学習内容 予習 復習	自然資源の保全、希少種の保護、ジオパーク、エコツーリズム 保全保護の対象である自然資源と人間社会との関係性について調べておくこと。 講義を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認して理解を深める。
6回	学習内容 予習 復習	「田園風景」の社会史 人々が集まる「景観(landscape)」や「居場所(niche)」についてその活用と課題について調べる。 文化財保護法の改正により文化財が拡張したことを振り返り、新しい地域資源について考える。
7回	学習内容 予習 復習	地域資源としての埋蔵文化財 遺跡の発掘や考古学資料などの埋蔵文化財が地域活性化の資源となる事例について調べておく。 講義を振り返り、考古学上の発見が社会的に大きな影響を与えた事例について理解を深める。
8回	学習内容 予習 復習	建築物、建造物群、街なみ、ランドマーク 地域(まち)を表象する建物や建造物群とその活用と課題について調べる。 文化財保護法の改正により文化財が拡張したことを振り返り、新しい地域資源について考える。
9回	学習内容 予習 復習	無形の地域資源 ー祭礼・信仰・技術・パフォーマンスー 無形の地域資源について調べ、伝承・保護と活用の両立を達成する施策について考える。 講義を振り返り、無形の資源を伝承し、地域資源として蓄積するための方策について構想してみる。
10回	学習内容 予習 復習	地域資源としての食・食文化 地域に特有な食文化や観光資源として活用されているレシピ・食材等について調べておくこと。 講義を振り返り、食をキーワードとしたまちづくりと資源化のプロセスについて理解を深める。
11回	学習内容 予習 復習	みやげもの(Souvenir)の種類と意味 みやげものに関する「Gordonの5類型」を確認しておくこと(資料は事前配布します) 講義を振り返り、みやげものとして資源化されるモノや活動を自分なりにまとめる。
12回	学習内容 予習 復習	博物館・美術館とアート・マネージメント 博物館・美術館を基軸としたまちづくりの事例を調べておくこと。 講義を振り返り、博物館・美術館が地域活性化に資する資源として活用可能であることを確認する。
13回	学習内容 予習 復習	廃校利用と目的外利用の意義 少子化の影響で増加する学校の廃校事例を調べ、その再利用方法について調べる。 講義を振り返り、施設を目的外で利用する時代の背景と意義について、自身の考えをまとめておく。
14回	学習内容 予習 復習	多様化する地域資源 ー医療、福祉、子育て、女性活躍、防災ー 医療、福祉、子育て、女性活躍、防災等をまちづくりに活用している事例を調べる。 地域資源の多様性と柔軟性を振り返り、身近な地域社会に潜在している地域資源を発掘する。
15回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括 ー社会関係資本と地域資源ー これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心や社会生活上の課題に接続させ、今後の学びを発展させていく。

科目名	地域ブランド論*			科目コード	23140		
英文名	Regional Innovation			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)		
担当教員	山崎 寿美子		教員コード	147	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探求する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	人口減少や少子高齢化が進む現代社会において、地域の活性化に向けて、その地域特有の歴史、文化、特産品、景観など有形無形の資源について考え、地域の方々と交流しながら、その価値を理解していく。						
授業の狙い・到達目標	地域ブランドは、特産品・名産品づくりだけでなく、訪れる・購入する・交流する・住むことを促すような、歴史、文化、景観、人々のコミュニティなどを含めた総合的な体系であることを理解できるようになる。その際、地域資源の活性化に関わる活動に取り組んでいच्छる地域の方々と交流を重視し、「体感する」ことを主眼におき、実践につなげることができる。						
授業内容のレベル・関連科目	ディスカッションや地域の方との交流には、日本語によるコミュニケーション能力が必要となる。 (関連科目)社会調査法、文化人類学、循環型社会論						
授業外学習(予習・復習)	日頃から、地域社会・地域文化に興味を持ち、さまざまな問題に対し、自分の考えを持てるように努めること。また、テーマごとにディスカッションしたりレポートが書けるよう、配布資料やフィールドワークのメモなどを復習すること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	指定しない。						
参考書・その他教材	授業ごとに資料を配布するとともに、テーマに合わせて適宜参考文献を指示する。						
課題に対するフィードバック	各回に出した課題については、翌週の授業でコメントをする。						
成績評価方法	レポート(50%)、フィールドワークやプレゼンテーションへの積極的な参加(50%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する						
履修上の注意事項や学習上の助言	フィールドワークを実施することが複数回ある。本科目を履修するには、「社会調査法」も合わせて受講すること。また、後期に「文化人類学」および「循環型社会論」も受講することが望ましい。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。						

授業スケジュール

地域ブランド論

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション—授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2回	学習内容 予習 復習	地域について調べる①四街道市の歴史 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 資料を読み返し、内容をまとめておく。
3回	学習内容 予習 復習	地域について調べる②四街道市の産業 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 資料を読み返し、内容をまとめておく。
4回	学習内容 予習 復習	地域について調べる③四街道市の特産品・名産品 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 資料を読み返し、内容をまとめておく。
5回	学習内容 予習 復習	地域について調べる④人と人をつなぐコミュニティ 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 資料を読み返し、内容をまとめておく。
6回	学習内容 予習 復習	四街道市の産業に関するフィールドワーク 調査するフィールドについて調べておくこと。 調査中にメモをしたことを中心に特徴をまとめる。
7回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの結果と考察①四街道市の産業について ディスカッションをできるように自分の意見をまとめておく。 ディスカッションの内容をまとめておく。
8回	学習内容 予習 復習	グループワーク① グループワークをするために、ディスカッションの内容を振り返っておく。 アイデアを整理する。
9回	学習内容 予習 復習	プレゼンテーション①四街道市の産業をテーマに地域活性化のアイデアを提案する グループごとにプレゼンテーションの準備をする。 提示された課題への回答を考えておく。
10回	学習内容 予習 復習	四街道市の特産品・名産品に関するフィールドワーク 調査するフィールドについて調べておくこと。 調査中にメモをしたことを中心に特徴をまとめる。
11回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの結果と考察②四街道市の特産品・名産品について ディスカッションをできるように自分の意見をまとめておく。 ディスカッションの内容をまとめておく。
12回	学習内容 予習 復習	グループワーク② グループワークをするために、ディスカッションの内容を振り返っておく。 アイデアを整理する。
13回	学習内容 予習 復習	プレゼンテーション②四街道市の特産品・名産品をテーマに地域活性化のアイデアを提案する グループごとにプレゼンテーションの準備をする。 提示された課題への回答を考えておく。
14回	学習内容 予習 復習	地域活性化のアイデアの実践 第9回・第13回のプレゼンテーションで提示されたアイデアを振り返っておく。 地域との関わりのなかでの気づきをまとめておく。
15回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめ—四街道市について得られた知識やアイデアをディスカッションする これまでのプレゼンテーションの課題をまとめる。 授業中のディスカッションについてまとめてレポートを書く。

科目名	まちづくり論*			科目コード	23150		
英文名	Community and Development Study			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)		
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・2時限	授業形態	講義		
学位授与方針との対応	<input type="checkbox"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input type="checkbox"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="checkbox"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="checkbox"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input checked="" type="checkbox"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する		<input type="checkbox"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	まちづくりは、人々のつながりや活動が生み出す「暮らしの風景」をともにデザインしていくことである。本講は、具体的な事例の解説と実践的な講義を通して、まちづくりの意義と可能性について学ぶものである。						
授業の狙い・到達目標	[到達目標①] まちづくりの実践事例を講義で解説した用語を用いて説明することができる。 [到達目標②] まちづくりの課題と可能性について、自らの言葉で説明することができる。 [到達目標③] 他者と協働して新しい活動や絆(きずな)づくりを構想できる。						
授業内容のレベル・関連科目	まちづくりは、さまざまな学問分野や活動領域の総体であることから、文化、芸術、歴史、地域社会、経済経営、キャリアデザインなどの関連科目を併せて学習とともに、大学外での学びや経験を大切にすることが望まれる。						
授業外学習(予習・復習)	[事前学習] まちづくりの実践例について調べ、まちづくりの基点となる事情や関係の探求に努めること。 [事後学習] 講義内容を実際の社会生活に結びつけて振り返り、他者との協働を実現するために必要なことを自分なりに考えていくこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	特になし。事前もしくは講義中にプリントを適宜配布する。						
参考書・その他教材	・山崎義人他『はじめてのまちづくり学』学生出版社(2021) ・大内田鶴子『世界に学ぶ地域自治-コミュニティ再生のしくみと実践-』学生出版社(2021) ・松本茂章『文化で地域をデザインする』学芸出版社(2020)						
課題に対するフィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付けて解説する。						
成績評価方法	・課題レポート[到達目標①②③](50%) ・小課題・リアクションペーパー[到達目標②③](40%) ・講義への参加状況(10%)						
成績評価基準	授業の狙いにおける学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	まちづくりに大切なことは「過程」と「経験」です。人々が笑顔になれるまちづくりとは、どのようなものを意味するのか、既存の考えや常識にとらわれることなく、自由な発想と思考を期待しています。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。						

授業スケジュール

まちづくり論

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 一育てありまちづくりー シラバスを精読し講義の概要と方法について確認しておくこと。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2回	学習内容 予習 復習	協働のまちづくり ー社会関係資本ー 社会関係資本とはどのようなことを意味しているのか、事前に調べておくこと。 社会関係資本の概念が生まれた経緯や協働のまちづくりについて振り返り理解を深める。
3回	学習内容 予習 復習	生涯学習社会の到来とまちづくり 日本における生涯学習の歴史と現在推進されている施策について調べておくこと。 生涯学習の歴史を振り返り、現在のまちづくりとの連携や展望について整理する。
4回	学習内容 予習 復習	まちづくりを担う専門職 ー社会教育主事・社会教育士ー 社会教育の専門職である社会教育主事・社会教育士の責務と仕事について調べる。 まちづくりにおける社会教育主事・社会教育士の役割と実践事例について振り返り、理解を深める。
5回	学習内容 予習 復習	SDGsとまちづくり SDGsを事前に調べ、これらの取り組みをまちづくりに応用する方策と工夫について調べる。 講義を振り返り、SDGsの理念を反映したまちづくり事例を主体的に調べてみる。
6回	学習内容 予習 復習	産業とまちづくり 地域に特有の産業や生産物を活用したまちづくりの事例を調べておくこと。 地域の特性を生かした産業や生産物が、まちづくりに与える影響・効果について振り返る。
7回	学習内容 予習 復習	サブカルチャーの「聖地」 サブカルチャーの「聖地」にはどのようなものがあるか、事前に調べておくこと。 聖地となっている土地、場所、建物などの事例を掘り下げ、まちづくりの事例として理解を深める。
8回	学習内容 予習 復習	「消滅可能性都市」をめぐる議論の課題と展望 消滅可能性都市について調べ、事前に自らの考えをまとめておくことが望ましい。 講義を振り返り、消滅可能性都市に関する理解を深め、将来の議論のための解決策を構想する。
9回	学習内容 予習 復習	安心のまちづくり(1) 防災 地域の防災計画を概観し、人々が安心と安全を感じるまちの要件について調べる。 各地の防災計画について振り返り、多様なニーズに対応した防災計画について構想する。
10回	学習内容 予習 復習	安心のまちづくり(2) 男女平等、多様な性の尊重 事前配布資料を通読し、男女平等や多様な性の尊重がまちづくりに資することを確認する。 講義を振り返り、男女平等や多様な性の尊重がまちづくりの推進の一助となることを理解する。
11回	学習内容 予習 復習	「地域総がかりで子どもを育てる」地域学校協働活動とコミュニティ・スクール(CS) 文部科学省が推進する地域学校協働活動とCSについて、事前に確認しておくこと。 地域学校協働活動やCSが推進されている理由とその実践事例について説明できるようにする。
12回	学習内容 予習 復習	まちづくりと広報、情報化の課題 情報を発信する手段・方法にはどのようなものがあるか事前に調べておくこと。 講義を振り返り、魅力ある広報や情報発信の効果・有用性などについて理解を深める。
13回	学習内容 予習 復習	自治基本条例(まちづくり基本条例)と行政計画 事前に配布する自治基本条例の中から、関心のある事項を1つ以上選んで通読しておくこと。 講義を振り返り、自治体基本条例や各行政計画について、概略を説明できるようにする。
14回	学習内容 予習 復習	まちづくりの「失敗学」 まちづくりが成功しなかった事例を調べ、その理由や背景について自身の考えをまとめておく。 講義を振り返り、まちづくりが成功しなかった事例を通して、改善点と新たな提案について考える。
15回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括 ーパートナーシップと「場所の力」 これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心や社会生活上の課題に接続させ今後の学びを進展させていくこと。

科目名	循環型社会論*			科目コード	23160		
英文名	Circulatory Society			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)		
担当教員	山崎 寿美子	教員コード	147	単位数	2単位		
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・2時限	授業形態	講義		
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探索する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	資源の枯渇、環境汚染、気候変動などの問題が生じている今日、これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会を見直して、新たな資源の消費を抑え、廃棄物を資源として再利用するといった循環型の社会のあり方が模索されている。本授業では、こうしたテーマについて講義するとともに、四街道市の活動団体などに調査も実施する。						
授業の狙い・到達目標	環境に対して意識を持ち、生活環境問題・地球環境問題に関する学びを通して、何がどのように問題かを考える力を養って行く。環境配慮型製品の普及や、資源や廃棄物の利用法などについて学び、持続可能な社会への施策を考えられるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	新聞などが読める日本語力・読解力や、聞き取り調査などに必要なコミュニケーション能力を必要とする。(関連科目)地域ブランド論、文化人類学、社会調査法						
授業外学習(予習・復習)	授業前に配布するレジュメや資料を読むこと。授業後は、レジュメを文章にまとめた上で、課題に取り組むこと。また、調査に際して事前に情報を調べたり、調査後にデータを整理するなどの、積極的な姿勢が不可欠である。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	養父 志乃夫『里地里山文化論(上)循環型社会の基層と形成』農山漁村文化協会、2009年。養父 志乃夫『里地里山文化論(下)循環型社会の暮らしと生態系』農山漁村文化協会、2009年。山口末花子2014『ヘラジカの贈り物ー北方狩猟民カスカと動物の自然誌』春風社。						
課題に対するフィードバック	各回に出した課題については、翌週の授業でコメントをする。						
成績評価方法	レポートなどの課題(50%)、フィールドワークを含む授業への積極的な参加(50%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する						
履修上の注意事項や学習上の助言	フィールドワークを実施することが複数回ある。本科目を履修するには、「文化人類学」も合わせて受講すること。また、前期に「社会調査法」および「地域ブランド論」を受講していることが望ましい。						
科目に関連した教員の業務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。						

授業スケジュール

循環型社会論

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション―授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2回	学習内容 予習 復習	循環型の考え方ー大量生産・大量消費・大量廃棄型からの移行 事前に配布する資料を読んでおくこと。 講義の要点をまとめて理解を深めること。
3回	学習内容 予習 復習	江戸の暮らしに学ぶ循環型社会①循環とは何か 事前に配布する資料を読んでおくこと。 講義の要点をまとめて、ディスカッションに備えること。
4回	学習内容 予習 復習	江戸の暮らしに学ぶ循環型社会②具体例から学ぶ 事前に配布する資料を読んでおくこと。 講義の要点をまとめて、ディスカッションに備えること。
5回	学習内容 予習 復習	江戸の暮らしに学ぶ循環型社会③ディスカッション 資料を見直し、講義の内容に関して、意見をまとめ、ディスカッションの準備をすること。 他の受講者の意見を受けて、レポートにまとめて提出すること。
6回	学習内容 予習 復習	四街道市での実習①循環型社会へ向けた取り組みを行なう団体などへの聞き取り調査 これまでの授業をふまえて、質問項目を考えてくること。 聞き取りで得られたデータをまとめておくこと。
7回	学習内容 予習 復習	四街道市での実習②結果の報告 データを整理して、報告できるよう準備をすること。 他の受講生の報告を受けて、何がポイントであったか、要点をまとめておくこと。
8回	学習内容 予習 復習	循環型製品の普及①身近な道具・物から循環型製品について考える 事前に配布する資料を読んでおくこと。 各自で出身地や他国の事例を調べておくこと。
9回	学習内容 予習 復習	循環型製品の普及②事例報告 報告できるように、出身地や他国の事例についてまとめて準備すること。 他の受講者の意見を受けて、レポートにまとめて提出すること。
10回	学習内容 予習 復習	プラスチックと環境問題①資料を読む 事前に配布する資料を読んでおくこと。 各自で出身地や他国の事例を調べておくこと。
11回	学習内容 予習 復習	プラスチックと環境問題①事例報告 報告できるように、出身地や他国の事例についてまとめて準備すること。 他の受講者の意見を受けて、レポートにまとめて提出すること。
12回	学習内容 予習 復習	四街道市での実習③環境問題に取り組む団体への調査 これまでの授業をふまえて、質問項目を考えてくること。 聞き取りで得られたデータをまとめておくこと。
13回	学習内容 予習 復習	四街道市での実習④結果の報告 データを整理して、報告できるよう準備をすること。 他の受講生の報告を受けて、何がポイントであったか、要点をまとめておくこと。
14回	学習内容 予習 復習	四街道市での実習⑤ディスカッション 整理した要点に基づいて、自分の意見が述べられるよう準備すること。 授業でのディスカッションを受けて、レポートを提出すること。
15回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 配布資料を読み返し、全ての回の授業内容を振り返っておくこと。 全体を振り返り、授業の論点をまとめておく。

科目名	協同組合論*			科目コード	23170		
英文名	Studies of Cooperative Associations			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)		
担当教員	中村 壘		教員コード	138	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・1時限	授業形態	講義		
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input checked="" type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探索する		<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	協同組合は資本主義社会のなかで生まれた自助組織である。なぜ協同組合は必要とされたのか、どのような歴史を経て現在に至っているのか、協同組合は今後どのような可能性を持っているのか、について講義する。						
授業の狙い・到達目標	協同組合の理念や歴史について理解する。 協同組合が解決できる社会の課題について、自分なりの意見を持てるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては基本レベルである。 関連科目：農業経済学						
授業外学習(予習・復習)	レジュメに沿って授業を進める。したがって予習として事前に目を通し、復習として授業後に再度見直すこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	賀川豊彦(2012)『協同組合の理論と実践』(復刻版)日本生活協同組合連合会出版部 日本農業新聞編(2017)『協同組合の源流と未来』岩波書店 講義レジュメを配布する。						
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。						
成績評価方法	定期試験(70%)、リアクションペーパー(30%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	社会問題に関するニュースや新聞記事に関心を持つこと。						
科目に関連した教員の業務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7						

授業スケジュール

協同組合論

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2回	学習内容 予習 復習	協同組合とはなにか 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3回	学習内容 予習 復習	協同組合の組織 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4回	学習内容 予習 復習	協同組合と社会 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5回	学習内容 予習 復習	大原幽学と先祖株組合 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6回	学習内容 予習 復習	二宮尊徳と報徳社 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7回	学習内容 予習 復習	近代化の進展と産業組合 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8回	学習内容 予習 復習	農地改革とその効果 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9回	学習内容 予習 復習	農業協同組合の成立 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10回	学習内容 予習 復習	さまざまな協同組合 I (大学) 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11回	学習内容 予習 復習	さまざまな協同組合 II (消費者) 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12回	学習内容 予習 復習	さまざまな協同組合 III (漁業者) 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13回	学習内容 予習 復習	世界の協同組合 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14回	学習内容 予習 復習	21世紀の協同組合 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

科目名	移民政策論（現代の政治）			科目コード	23180		
英文名	Immigration Policies (Contemporary Politics)			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻（必修）		
担当教員	栗林 慶		教員コード	158	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	グローバル化とヒトの国際移動をキーワードに、移民政策について考える。前半は、グローバル化によって変わる政治経済と移民政策における各課題について学ぶ。後半は世界各地のエスニック集団の事例について紹介する。						
授業の狙い・到達目標	①現代社会の政治を理解する手がかりとして、グローバル化の概念をヒトの国際移動の観点から説明することができる。 ②現代の移民政策についての基本的な論点をおさえ、日本の地域社会における望ましい共生のあり方や問題点を述べられるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	必要となる前提知識や履修科目は設定しない。						
授業外学習（予習・復習）	日頃からニュースや新聞などに目を通し、グローバル化現象や、外国人コミュニティーに関して関連知識を得ること。授業内課題の準備として、講義の内容はよく復習し、不明な用語は調べておくこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	講義で使用したものについては、適宜紹介する。						
課題に対するフィードバック	提出課題については、各自の答案を評価し、次週以降に返却する。また、適宜、補足説明やコメントを付記する。						
成績評価方法	平常点(30%) 授業内課題(40%) 定期試験(30%) 平常点は、①授業への参加意欲 ②発言等による授業への貢献 ③周囲との共同・協調の各項目を評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	より発展的な内容を学びたい場合は、参考図書等を案内する。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。						

授業スケジュール

移民政策論（現代の政治）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 移民政策論の視点 シラバスを読み、授業内容について確認しておく。 授業内容と進め方について、確認しておく。
2回	学習内容 予習 復習	国家、国民、民族 国家や国民、民族といった用語を調べ、理解しておく。 講義で説明された用語の概念を復習し、説明できるように復習をする。
3回	学習内容 予習 復習	グローバル化の進展 その1 ヒト・モノ・カネの国際移動 グローバル経済や国際政治に関するニュース・新聞記事を読んでおく。 講義の内容をふまえて予習の内容を深める。
4回	学習内容 予習 復習	グローバル化の進展 その2 移住と移民 グローバル経済や国際政治に関するニュース・新聞記事を読んでおく。 講義の内容をふまえて予習の内容を深める。
5回	学習内容 予習 復習	グローバル化の進展 その3 日本における移民と経済的・社会的影響 グローバル経済や国際政治に関するニュース・新聞記事を読んでおく。 講義の内容をふまえて予習の内容を深め、グローバル経済と移民の関係について考える。
6回	学習内容 予習 復習	移民政策① 出入国管理・シチズンシップ 移民政策に関するニュース・新聞記事を探し、事例を確認しておく。 講義をふりかえり、適切な移民政策のあり方について考える。
7回	学習内容 予習 復習	移民政策② 労働・ジェンダー・技能 移民政策に関するニュース・新聞記事を探し、事例を確認しておく。 講義をふりかえり、適切な移民政策のあり方について考える。
8回	学習内容 予習 復習	移民政策③ 多文化共生・教育・福祉 移民政策に関するニュース・新聞記事を探し、事例を確認しておく。 講義をふりかえり、適切な移民政策のあり方について考える。
9回	学習内容 予習 復習	世界のチャイナタウンと日本の華人社会 チャイナタウンがどのような国や地域でみられるかを調べておく。 前回の内容と合わせて復習をする。中国系移民がどのように現地に適応しているか考える。
10回	学習内容 予習 復習	北米のエスニック社会 アメリカとカナダの移民政策について、概略を調べておく。 北米の中国系移民とその他を比較し、北米のエスニック社会の理解を深める。
11回	学習内容 予習 復習	ヨーロッパのエスニック社会 EUや周辺諸国で生じている移民問題について調べておく。 EUの移民問題と北米の移民問題との違いを考える。
12回	学習内容 予習 復習	海外の日系人社会 日本から海外への移住の歴史について調べておく。 日本人の海外移住の歴史を、近年のアジアの国々の動向と比較しながら復習する。
13回	学習内容 予習 復習	日本のコリアン社会 日本のコリアン社会の歴史について、概要を調べておく。 日本文化と日本のコリアン社会の相互の影響について、サブカルチャーなどを切り口に考える。
14回	学習内容 予習 復習	日本のインドネシア人社会 日本のインドネシア社会の歴史について、概要を調べておく。 日本のエスニック集団の新たな動向として、他にどのような事例があるかを調べる。
15回	学習内容 予習 復習	講義のふりかえり 各回の資料を読み返し、授業内容を振り返っておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。

科目名	多文化共生社会論（多文化共生論）			科目コード	23190	
英文名	Inclusive Society of Various Cultures (Multicultural Relations)			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻（選択）	
担当教員	羽田 利久		教員コード	155	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・3時限	授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	2019年は3000万人を超える外国人が日本を訪れていた。彼らが日本を訪れる理由は様々だが、その中でも特に訪日外国人観光客の動向について学ぶことにより、多文化共生についての理解を深める。					
授業の狙い・到達目標	訪日外国人観光客を中心に学ぶことにより、外国人と日本人との視点の違いや、国ごとに嗜好が異なることを理解できることを目的とする。さらに、相互理解のために考えられる手段等について、受講者なりの意見を持つことができるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	「観光は平和へのパスポート」という言葉があるが、これを実感できるような授業にしたいと考えている。観光学Ⅰ、Ⅱで観光学全般について学ぶため、併せての受講を推奨する。					
授業外学習（予習・復習）	授業計画を確認して、参考になりそうな時事問題について事前に確認しておくことが予習に繋がる。授業時に配布する資料や自身で作成したノートを元に、しっかりと復習をおこなうこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	教科書は使用せず、その都度レジュメを配布する。					
参考書・その他教材	JNTO訪日旅行データハンドブック2023（オンラインで入手可能）					
課題に対するフィードバック	授業ごとに小テストや小レポートなどを課し、そのフィードバックは随時おこなう。その他疑問点があれば次回以降の授業で回答する。					
成績評価方法	授業内容の理解(50%)、授業への貢献度(30%)、小レポート等(20%)により、総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	日頃から授業に関連したニュース等を意識して、知識の取得に努めること。復習を重点的におこない、授業内容の理解を深めること。授業計画は社会情勢や学生の理解度等を勘案して、変更する可能性がある。					
科目に関連した教員の実務経験	旅行会社社員として旅行の企画や広告宣伝など旅行に関する全般的な業務を担当（経験）（第8回～第14回は実務経験を踏まえた講義である）					
担当教員への連絡方法	授業前後での質問、ならびにメールでも受け付ける。メールアドレス hada@aikoku-u.org					

授業スケジュール

多文化共生社会論（多文化共生論）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、本講義の目的と内容、授業の進め方について 授業計画を熟読して、授業の概要について理解をして臨むこと。 授業の目的、内容について再度確認をし、理解を深めること。
2回	学習内容 予習 復習	多文化共生の手段としての観光 多文化共生とはどのようなことか、自分なりの意見をまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
3回	学習内容 予習 復習	異文化を理解する・生活 日本にしかないものについて、自分なりの言葉でまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
4回	学習内容 予習 復習	地球環境の問題について 環境問題について文化の違いにより何か差があるかを考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
5回	学習内容 予習 復習	地域格差の問題について 地域格差の問題について、自分なりの意見をまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
6回	学習内容 予習 復習	異文化を理解する・異国の人もてなす 外国人をもてなす際、自分ならどうするかを考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
7回	学習内容 予習 復習	外国人観光客増加のための観光政策 自分の国が外国人観光客を受け入れるためのどのようなことをおこなっているか確認すること。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
8回	学習内容 予習 復習	外国人を迎えるための施策(1) 総論 街で気が付いた外国人観光客受け入れのための施策をまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
9回	学習内容 予習 復習	外国人を迎えるための施策(2) 宿泊産業 自分が外国で宿泊する際にあったらいいなと思う事をまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
10回	学習内容 予習 復習	外国人を迎えるための施策(3) 運輸産業 自分が海外旅行をした場合、移動の際にどのようなことで困りそうか考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
11回	学習内容 予習 復習	外国人を迎えるための施策(4) 観光施設 自分が海外旅行をした場合、観光をする際にどのようなことで困りそうか考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
12回	学習内容 予習 復習	訪日外国人が期待するもの(1) 食事 自分が海外旅行をするとしたら、どのような情報から食べたいものを見つけるか考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
13回	学習内容 予習 復習	訪日外国人が期待するもの(2) 買い物 自分が海外旅行をするとしたら、どのような情報から買いたいものを見つけるか考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
14回	学習内容 予習 復習	訪日外国人が期待するもの(3) 観光 自分が海外旅行をするとしたら、どのような情報から見たいものを見つけるか考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
15回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめ これまでの授業で配布したレジュメを振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 授業内容全般を振り返り、多文化共生についての理解を深めること。

科目名	地域文化と共生（地域研究Ⅰ）			科目コード	23200	
英文名	Inclusive Society and Local Cultures (Area Studies Ⅰ)			科目区分	【共通教養科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	晨 晃		教員コード	209	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・3時限	授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	グローバル化に伴う多文化共生現象について日本の社会環境の中で学ぶ。講義では学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学問を深める。					
授業の狙い・到達目標	日本社会の現実から、多文化共生の基本的な考え方を学び、多文化共生と自分自身の生活経験との関連性を認識する。日本社会の中でますます進んでいる多文化共生現象について理解を深め、日本社会に関心を持ち、自分なりの考え方を形成できるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	最新情報に基づいて多文化共生に関する現状と知識を得る。その中で社会学の視点からあらゆる要因を分析する力を身につける。					
授業外学習(予習・復習)	授業の前にインターネットを利用して情報を収集し、研究発表を読み、授業後、授業の内容について質問や感想文をまとめて提出する。次回の授業で解答や意見交換を行う。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	日本政府のウェブサイト(総務省)など https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/chiho/02gyosei05_03000060.html 毎日のニュースを注目すること					
課題に対するフィードバック	授業に関する質問や感想文を毎回提出させ、次の授業で解答や意見交換を行う。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	期末レポート(40%)、課題(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日頃から社会の諸事情に関心を持つことが求められる。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to: hayashi@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること					

授業スケジュール

地域文化と共生(地域研究Ⅰ)

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション——授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること
2回	学習内容 予習 復習	「多文化共生」概念の整理 多文化共生という基礎概念について調べ、理解すること 多文化共生現象研究の開始、発展について振り返り、レポートを提出すること
3回	学習内容 予習 復習	島国としての日本と多文化共生 日本社会の特徴について調べ、理解すること 日本と多文化共生の関連性について振り返り、レポートを提出すること
4回	学習内容 予習 復習	多文化共生の条件について学ぶ。 文化における言語、習慣、宗教の役割について調べ、理解すること 以上の諸要素の意義について振り返り、レポートを提出すること
5回	学習内容 予習 復習	多文化共生によって発生する問題について学ぶ。 文化における言語、習慣、宗教の差異について調べ、理解すること 異文化コミュニケーションの問題点について振り返り、レポートを提出すること
6回	学習内容 予習 復習	日本社会における技能実習生の現状について学ぶ。 技能実習生に関する情報や現状について調べ、理解すること 働く外国人と多文化共生の関係について振り返り、レポートを提出すること
7回	学習内容 予習 復習	日本の外国人留学生について学ぶ。 留学生に関する情報や現状について調べ、理解すること 留学生と多文化共生の関係について振り返り、レポートを提出すること
8回	学習内容 予習 復習	多文化共生に関する日本政府の政策・方針について学ぶ。 日本政府の政策や対策について調べ、理解すること 日本政府の政策について振り返り、レポートを提出すること
9回	学習内容 予習 復習	日本各地の自治体と多文化共生について学ぶ。 自治体の多文化共生策について調べ、理解すること 自分の住む地域の現状について振り返り、レポートを提出すること
10回	学習内容 予習 復習	ケーススタディー(1) 欧米人と日本社会 欧米人の日本社会における共生について調べ、理解すること 具体的な事例について調べて、レポートを提出すること
11回	学習内容 予習 復習	ケーススタディー(2) アジア人と日本社会 韓国人、中国人、ベトナム人のケースについて調べ、理解すること 具体的な事例について調べて、レポートを提出すること
12回	学習内容 予習 復習	ケーススタディー(3) その他の民族と日本社会 その他の民族の日本社会における共生について調べ、理解すること 具体的な事例について調べ、レポートを提出すること
13回	学習内容 予習 復習	多文化共生の将来について学ぶ 多文化共生の可能性について調べ、理解すること なぜ多文化共生が必要であるかについて振り返り、レポートを提出すること
14回	学習内容 予習 復習	ディスカッション あなたの体験談 他人の気持ち、立場をいかに理解するかについて考えること 授業を受ける前と受けた後、自分の変化について振り返り、レポートを提出すること
15回	学習内容 予習 復習	まとめ——多文化共生の意義について学ぶ 人類の将来と多文化共生の関係について調べ、理解すること 今までの授業内容を振り返り、多文化共生の諸課題をとりまとめること

科目名	社会調査法（比較文化論Ⅱ）			科目コード	23210		
英文名	Social Reserch Methods (Comparative Cultue II)			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)		
担当教員	山崎 寿美子		教員コード	147	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input checked="" type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する		<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	地域や文化についての深い理解には、文献購読の他、聞き取りや参与観察に基づく現地調査が欠かせない。本授業では、文化人類学的な調査について講義した後、グループごとにテーマを設定し、地域団体や市役所等のご協力を得ながら、実践的に調査を行う。						
授業の狙い・到達目標	卒業研究で調査を行うことを前に、受講生が自ら研究の問いを立て、調査計画を考えられるようになることを目指す。調査の意義・方法に関する基礎的な知識を習得するとともに、インフォーマントとの関わりのなかで調査をするとはどういうことかを実践的に学ぶことができる。						
授業内容のレベル・関連科目	授業内でのディスカッションや地域の方々との交流には、日本語によるコミュニケーション能力が必要となる。（関連科目）地域ブランド論、文化人類学、循環型社会論						
授業外学習（予習・復習）	実践的な授業のため、事前に調査のテーマに関する情報を調べたり、調査後にはデータを整理したりするなど、積極的な取り組みが不可欠である。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	指定しない。						
参考書・その他教材	松村圭一郎『はみだしの人類学 ともに生きる方法 NHK出版 学びのきほん』NHK出版、2020年。梶丸岳・丹羽朋子・椎野若菜(編)『フィールドノート古今東西』、古今書院、2016年。						
課題に対するフィードバック	各回に出した課題については、翌週の授業でコメントをする。						
成績評価方法	レポート(50%)、フィールドワークやプレゼンテーションへの積極的な参加(50%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	フィールドワークを実施することが複数回ある。本科目を履修するには、「地域ブランド論」も合わせて受講すること。また、後期に「文化人類学」および「循環型社会論」も受講することが望ましい。						
科目に関連した教員の業務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。						

授業スケジュール

社会調査法（比較文化論Ⅱ）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション—授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2回	学習内容 予習 復習	問いを立てる①研究や調査の前提となる問いと仮説について考える 事前に配布する資料を読んでくること。 授業をふまえて資料を読み返し、要点をまとめておくこと。
3回	学習内容 予習 復習	問いを立てる②新聞記事から 新聞を読み、社会問題に関する記事を選んで持ってこくること。 自身で研究の問いが立てられるよう、授業内容を復習すること。
4回	学習内容 予習 復習	インタビュー調査について学ぶ①講義 事前に配布する資料を読んでくること。 授業をふまえて資料を読み返し、要点をまとめておくこと。
5回	学習内容 予習 復習	インタビュー調査について学ぶ②四街道市で活動する団体へのインタビュー 事前に情報を調べ、インタビュー項目を作成してくること。 インタビューの内容をまとめておくこと。
6回	学習内容 予習 復習	インタビュー調査について学ぶ③ディスカッション インタビューの内容について、ディスカッションできるよう整理しておくこと。 他の受講生の発表を受けて、仮説を再検討すること。
7回	学習内容 予習 復習	参与観察について学ぶ。 事前に配布する資料を読んでくること。 授業をふまえて資料を読み返し、要点をまとめておくこと。
8回	学習内容 予習 復習	ライフストーリー調査について学ぶ 事前に配布する資料を読んでくること。 授業をふまえて資料を読み返し、要点をまとめておくこと。
9回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践①グループごとに調査計画をつくる 四街道市で活動する団体や専門家などについて調べ、調査のテーマを考えてくること。 アドバイスを受けて、調査計画を再検討すること。
10回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践②調査計画を推敲する グループごとに調査計画を練り直し、発表できるよう準備すること。 他のグループの発表を受けて、良い点、改善点をまとめ、自分たちの計画に活かすこと。
11回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践③調査の実施 調査協力者にアポを取り、調査の準備を整えること。 調査で得られたデータを整理して、途中経過を報告すること。
12回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践④調査の実施(続き) 前回の調査での反省点・改善点や気づきをグループで話し合っておくこと。 調査で得られたデータを整理して、報告できるようまとめること。
13回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践⑤調査データの報告(グループ1)とディスカッション グループで話し合いを進め、調査のデータを報告する準備を整えること。 報告したグループは、内容をレポートにまとめて提出すること。
14回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践⑥データの報告(グループ2)とディスカッション グループで話し合いを進め、調査のデータを報告する準備を整えること。 報告したグループは、内容をレポートにまとめて提出すること。
15回	学習内容 予習 復習	総合討論 互いのグループの報告について、良い点・改善点をまとめてくること。 ディスカッションで提示された課題について、各自が自分の意見をまとめて提出すること。

科目名	社会経済史（現代の経済）			科目コード	23220		
英文名	Socio-Economic History (Contemporary Economy)			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻（選択）		
担当教員	中村 壘		教員コード	138	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	今から500年以上前の大航海時代から現代に至るまでのグローバル・ヒストリー、中でもヨーロッパとアジアの関係に注目する。ヒト・モノ・カネ・情報は地球の上でどのような動きをしてきたのか、また日本は世界とどのような関係を持ってきたのかについて講義する。						
授業の狙い・到達目標	貧困や飢餓、環境の悪化といった国や地域を超えたグローバルな問題が形成されてきた歴史的過程について理解できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては基本レベルである。 関連科目：農業史						
授業外学習（予習・復習）	教科書に沿って授業を進める。したがって予習として指定箇所を事前に読み、復習として授業後に再度読むこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	杉山伸也(2014)『グローバル経済史入門』岩波書店						
参考書・その他教材	平賀緑(2021)『食べものから学ぶ世界史』岩波書店 授業の回によってはレジュメ等を配布する。						
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。						
成績評価方法	定期試験(70%)、リアクションペーパー(30%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	歴史に関するニュースや新聞記事に関心を持つこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7						

授業スケジュール

社会経済史（現代の経済）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2回	学習内容 予習 復習	アジア域内交易と大航海時代 教科書の第1章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3回	学習内容 予習 復習	近世東アジアの国際環境①中国 教科書の第2章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4回	学習内容 予習 復習	近世東アジアの国際環境②日本 教科書の第2章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5回	学習内容 予習 復習	インドの植民地下とイギリス 教科書の第3章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6回	学習内容 予習 復習	イギリス産業革命 教科書の第4章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7回	学習内容 予習 復習	「バクス・ブリタニカ」の時代 教科書の第4章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8回	学習内容 予習 復習	アジアの近代化①(中国・タイ) 教科書の第5章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9回	学習内容 予習 復習	アジアの近代化②(日本) 教科書の第5章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10回	学習内容 予習 復習	アジア経済のモノカルチャー化と再編 教科書の第6章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11回	学習内容 予習 復習	両大戦間期の世界経済 教科書の第7章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12回	学習内容 予習 復習	両大戦間期の日本経済 教科書の第7章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13回	学習内容 予習 復習	戦後世界経済の再建と動揺 教科書の第8章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14回	学習内容 予習 復習	グローバル経済の現在 教科書のエピローグを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

科目名	農業史*			科目コード	23230		
英文名	Agricultural History			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)		
担当教員	中村 塑		教員コード	138	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input checked="" type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探究する		<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	<p>当たり前のことであるが、人間は食料なくしては生きていくことができない。したがって人間は、人間に食料を供給する第1次産業、特に農業とともに長い歴史を歩んできた。しかしながら、人間が作った社会の仕組みは各時代によって異なるため、社会の影響を受けやすいという性格を持つ農業は、それぞれの時代ならではの姿あらわしてきた。農業について、時代を越えてつながっている点は何であるのか、各時代の中でのみみられた点は何であるのか、つまり歴史の連続している面と断絶している面の双方を意識しながら授業を進めていく。</p>						
授業の狙い・到達目標	日本における農業の歩みを学び、現代日本農業が有する諸問題の歴史的背景について理解できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては基本レベルである。 関連科目:社会経済史						
授業外学習(予習・復習)	教科書に沿って授業を進める。したがって予習として指定箇所を事前に読み、復習として授業後に再度読むこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	木村茂光編(2010)『日本農業史』吉川弘文館						
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。						
成績評価方法	定期試験(70%)、リアクションペーパー(30%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	歴史に関するニュースや新聞記事に関心を持つこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7						

授業スケジュール

農業史

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2回	学習内容 予習 復習	原始の農業 参考書の「II 原始」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3回	学習内容 予習 復習	古代の農業 参考書の「III 古代」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4回	学習内容 予習 復習	中世(鎌倉・南北朝期)の農業 参考書の「IV 中世」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5回	学習内容 予習 復習	中世(室町・戦国期)の農業 参考書の「IV 中世」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6回	学習内容 予習 復習	近世の農業(新田開発の進展) 参考書の「V 近世」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7回	学習内容 予習 復習	近世の農業(集約農業の追求) 参考書の「V 近世」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8回	学習内容 予習 復習	近世の農業(農書の誕生) 参考書の「V 近世」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9回	学習内容 予習 復習	近世の農業(商業的農業の隆盛) 参考書の「V 近世」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10回	学習内容 予習 復習	近現代の農業(地租改正と明治農法) 参考書の「VI 近代」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11回	学習内容 予習 復習	近現代の農業(小作争議の勃発) 参考書の「VI 近代」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12回	学習内容 予習 復習	近現代の農業(戦争と戦時農業統制の開始) 参考書の「VI 近代」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13回	学習内容 予習 復習	近現代の農業(農地改革) 参考書の「VI 近代」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14回	学習内容 予習 復習	近現代の農業(高度経済成長と農業) 参考書の「VI 近代」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15回	学習内容 予習 復習	近現代の農業(国際化時代の農業) 参考書の「VI 近代」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること

科目名	生涯学習論*			科目コード	23240		
英文名	Studies on Lifelong Learning			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)		
担当教員	太田和 良幸		教員コード	154	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する		<input checked="" type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	生涯学習の意義、生涯学習の方法と内容、関係施設と職員の役割などについて学ぶ。また、新たな学習方法や地域社会、高齢化社会における生涯学習の役割など生涯学習の今日的な課題について考察し、理解を深める。						
授業の狙い・到達目標	人が生涯にわたって学習し続けることの意義と重要性、並びにその方法などについて理解を深めるとともに、住民の生涯学習活動と地域づくりの関連を理解し、地域における生涯学習環境の在り方を考えることをねらいとする。 各自のライフスタイルに適したそれぞれの学び方を学修し、社会生活を豊かに過ごすために主体的に学んでいく力を獲得することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	社会教育士などになるための基礎的レベルであり、学習活動・文化活動やグループワークによる協同学習に関心と意欲があることが望まれる。 関連科目：まちづくり論、福祉政策学						
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組み、レポートにまとめ、授業に持参すること また、毎回授業内容について振り返り(復習し)、これをレポートにまとめ、次回の授業時に提出すること			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	教科書は使用しない。教員作成のレジュメなどを配布する。						
参考書・その他教材	「生涯学習のイノベーション」 笹井宏益・中村香著 玉川大学出版部						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、採点して返却する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	授業は、学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学習を深める。 主体的に学習に取り組むこと。 日頃から社会の諸事情に関心を持つことが求められる。						
科目に関連した教員の業務経験	文部省生涯学習局勤務、文化庁勤務、国立博物館勤務、社会教育主事講習講師 授業は全て上記の職務経験に基づき実施される。						
担当教員への連絡方法	質問はE-Mailでも受け付ける。(mail to: ohtawa@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

授業スケジュール

生涯学習論

1回	学習内容 【イントロダクション】 授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 予習 シラバスを熟読して、本授業の概要、授業方法などを理解しておく。 復習 授業の概要、授業方法などについて振り返りを行う。
2回	学習内容 「学び」とはどのようなものなのか、「学び」の意義について理解する。 予習 これまで学校以外で自分が学んできたこと、これから学びたいことを整理する。 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
3回	学習内容 ライフスタイルと「学び」(「学び」の生涯設計)について学ぶ。 予習 社会人になった時、高齢期など今後予想されるライフスタイルと学びについて考える。 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
4回	学習内容 「学び」を支える施設役割と機能について学ぶ。 予習 主として学びのために造られている施設にはどのようなものがあるか調べる。 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
5回	学習内容 地域学習センター(公民館)について学ぶ。 予習 身近にある公的学習センター(公民館など)を調べ、その機能と役割について整理する。 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
6回	学習内容 図書館について学ぶ。 予習 学びにおける書籍の役割、現代の図書館の役割について調べる。 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
7回	学習内容 博物館について学ぶ。 予習 博物館とはどのような施設か、その利用方法について調べてくる。 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
8回	学習内容 公的セクター(都道府県・市町村)が実施している学習プログラムについて学ぶ。 予習 都道府県や市町村が実施している学習プログラムの事例を調べる。 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
9回	学習内容 民間事業者の提供する学習プログラムについて学ぶ。 予習 カルチャーセンター、私塾、スポーツクラブ等の学習プログラムの特徴について調べる。 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
10回	学習内容 体験型学習の意義について学ぶ。 予習 自然体験や勤労体験ができる場所、プログラムを調べる。 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
11回	学習内容 ICTを活用した新しい学習方法について学ぶ。 予習 通常の授業とは異なる、ICTを活用した新しい学習方法、プログラムについて調べる。 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
12回	学習内容 ボランティア活動、NPO、「新しい公共」、社会的資本について学ぶ。 予習 住民が自主的に行っているボランティア活動等と学習との関係について事例を調べる。 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
13回	学習内容 地域文化活動、まちづくり、地域共生と「学び」について学ぶ。 予習 地域における文化活動・学習活動が地域づくり、まちづくりに役立っている事例を調べる。 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
14回	学習内容 【まとめ1】学びの多様性と学習方法について再確認する。 予習 今後の自己の学習課題、学習方法を探し出し、整理する。 復習 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
15回	学習内容 【まとめ2】生涯学習の今日的諸課題について学ぶ。 予習 学びについての今日的課題(評価、成果の活用、費用など)について調べる。 復習 全15回の授業を振り返り、生涯学習の今日的諸課題についてとりまとめる。

科目名	地域共生演習Ⅰ（地域研究Ⅱ）			科目コード	23250		
英文名	Studies of Inclusive SocietyⅠ (Area StudiesⅡ)			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)		
担当教員	栗林 慶		教員コード	158	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・4時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける	◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	この授業では、GIS(地理情報システム Geographic Information System)を取り扱う。GISソフトウェアの基本操作となる地図の表示や計測機能と、地理空間情報の分析方法について学ぶ。						
授業の狙い・到達目標	① GISの基本的な概念を理解し、説明することができる。 ② GISソフト「MANDARA」の基本操作を習得し、主題図の作成ができるようになる。 ③ 空間データをもとに、地理空間情報の分析ができるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	必要となる前提知識は設定しない。 地域共生演習Ⅱを合わせて履修することで、空間をとらえ、表現する能力を養うことができる。						
授業外学習(予習・復習)	習った内容は繰り返し確認し、授業内容と同様のソフトウェア操作は独力でできるように練習しておくこと。また、その際は、別のデータを用意してソフトウェアに入力してみるなどして、操作だけでなくその出力結果も意識しながら復習をすること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	授業内で適宜案内する。						
課題に対するフィードバック	各回の演習やプレゼンテーションについては、随時フィードバックを行う。						
成績評価方法	平常点(50%)、演習成果(50%) 平常点は、授業への参加意欲、授業への貢献、周囲との共同・協調の各項目を評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	受講人数や進度により、演習内容を変更する場合がある。 PCの基本操作(アカウントへのログイン、ファイルの保存、メールの送信等)や、オフィスソフト(Word、Excel、PowerPoint等)の操作については、授業内では案内しないので注意されたい。						
科目に関連した教員の業務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。						

授業スケジュール

地域共生演習Ⅰ（地域研究Ⅱ）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション シラバスを読み、授業内容について理解する。 授業の目的や内容、進め方について確認する。
2回	学習内容 予習 復習	GISとは 近年、GISがどのように用いられているか、調べておく。 授業で紹介した内容と予習時に調べた内容を合わせて、GISの重要性について再確認しておく。
3回	学習内容 予習 復習	様々なGISソフト GISの基本的な概念について復習しておく。 演習で操作した様々なツールについて、各々の特徴や利点を再確認しておく。
4回	学習内容 予習 復習	MANDARAのダウンロードと基本操作 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
5回	学習内容 予習 復習	付属地図ファイルを使用した白地図の作成 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
6回	学習内容 予習 復習	都道府県別・市区町村別の統計地図の作成 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
7回	学習内容 予習 復習	国土数値情報を用いた地図の作成 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
8回	学習内容 予習 復習	ジオコーディングによる分布図の作成 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
9回	学習内容 予習 復習	メッセージデータの地図化 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
10回	学習内容 予習 復習	国勢調査の小地域データを地図化する 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
11回	学習内容 予習 復習	立地分析① 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
12回	学習内容 予習 復習	立地分析② 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
13回	学習内容 予習 復習	地域データの収集&プレゼンテーションファイルの作成 どのような主題図を作成したいか、あらかじめ想定し、データを準備しておく。 出力した地図について、指摘された箇所を修正する。
14回	学習内容 予習 復習	各班のプレゼンテーション① これまでの授業内容を復習し、GISの操作方法や主題図の作成方法について再確認する。 提出した課題について、授業の該当箇所を復習し、自己の答案を振り返る。
15回	学習内容 予習 復習	各班のプレゼンテーション② これまでの授業内容を復習し、GISの操作方法や主題図の作成方法について再確認する。 提出した課題について、授業の該当箇所を復習し、自己の答案を振り返る。

科目名	地域共生演習Ⅱ（地域研究Ⅲ）			科目コード	23260		
英文名	Studies of Inclusive Society II (Area Studies III)			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)		
担当教員	栗林 慶		教員コード	158	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・2時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input checked="" type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	測量は古代から現在に至るまで変わらずに重要であり続ける技術の一つであり、その応用分野は幅広い。この授業では、教養として知っておくべき地図と測量の知識について案内しつつ、演習として実際に様々な方法を用いた測量を行う。						
授業の狙い・到達目標	① 測量に関する歴史や応用分野など、基本的な知識について説明することができる。 ② 測量の原理を理解し、正確な測定のための技術を実践できる。 ③ 授業で学んだ方法をもって、簡易な測量を計画し、実行することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	高校初歩レベルの数学の知識が必要となる。 空間をとらえ、表現する能力を養うために、地域共生演習Ⅰを合わせて履修することが望ましい。						
授業外学習(予習・復習)	測量は知識であり技能でもあることから、自身による反復の予習・復習が欠かせないことに注意されたい。また、測量機材の取り扱いについては、授業時間中に細かなメモを作成するなどし、よく予習・復習しておくこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	授業内で適宜案内する。						
課題に対するフィードバック	各回の演習やプレゼンテーションについては、随時フィードバックを行う。						
成績評価方法	平常点(50%)、演習成果(50%) 平常点は、授業への参加意欲、授業への貢献、周囲との共同・協調の各項目を評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	受講人数や天候等により、演習内容に調整を加える場合がある。						
科目に関連した教員の業務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。						

授業スケジュール

地域共生演習Ⅱ（地域研究Ⅲ）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション～地図と測量～ シラバスを読み、授業内容について理解をしておくこと。 授業の目的や内容、進め方について確認しておくこと。
2回	学習内容 予習 復習	測量法、測量の種類、測量技術の進歩 身の回りでのように測量が用いられているかを調査しておくこと。 授業内で紹介された測量の応用分野や最新技術について、調査を行うこと。
3回	学習内容 予習 復習	測量で用いる計算① 単位と測量数学 高校数学を復習しておくこと。 授業で学んだ計算方法について、数値を変えるなどして自分でも繰り返し計算をしてみること。
4回	学習内容 予習 復習	測量で用いる計算② 誤差と最確値 高校数学を復習しておくこと。 授業で学んだ計算方法について、数値を変えるなどして自分でも繰り返し計算をしてみること。
5回	学習内容 予習 復習	距離を測る① 距離を計測する様々な方法について、あらかじめ調べておくこと。 実際に計測してみた結果を振り返り、第3回・第4回で学んだ内容と合わせて検討しておくこと。
6回	学習内容 予習 復習	距離を測る② 前回は測定した結果と手順をよく振り返っておくこと。 前回学んだ内容と合わせて、測量の手順、方法をよく復習しておくこと。
7回	学習内容 予習 復習	土地の高低を測る① 土地の高低のデータが必要とされる場合はどのようなときか、調べておくこと。 実際に計測してみた結果を振り返り、第3回・第4回で学んだ内容と合わせて検討しておくこと。
8回	学習内容 予習 復習	土地の高低を測る② 前回は測定した結果と手順をよく振り返っておくこと。 前回学んだ内容と合わせて、測量の手順、方法をよく復習しておくこと。
9回	学習内容 予習 復習	水平の角度を測る① 第1回と第2回の内容を中心に、角度と測量の関係について振り返っておくこと。 実際に計測してみた結果を振り返り、第3回・第4回で学んだ内容と合わせて検討しておくこと。
10回	学習内容 予習 復習	水平の角度を測る② 前回は測定した結果と手順をよく振り返っておくこと。 前回学んだ内容と合わせて、測量の手順、方法をよく復習しておくこと。
11回	学習内容 予習 復習	トータルステーションを用いた測量 第5回～第10回までの内容を重点的に復習しておくこと。 トータルステーションで計測する場合の注意点について、復習しておくこと。
12回	学習内容 予習 復習	面積を測る 高校数学を復習しておくこと。 第3回・第4回の内容と、第5回から第12回までの内容を関連付け、復習しておくこと。
13回	学習内容 予習 復習	班別の測量(準備) 計画書の作成 これまで学んだ内容から、どのような測量が可能か、あらかじめ考えておくこと。 次回以降行う班別の測量の、役割分担や手順について班員とよく話し合うこと。
14回	学習内容 予習 復習	班別の測量① 提出した測量の計画書を振り返り、測定の手順や機材の取り扱いを予習しておくこと。 測定が計画通り行われたかを振り返ること。
15回	学習内容 予習 復習	班別の測量② 提出した測量の計画書を振り返り、測定の手順や機材の取り扱いを予習しておくこと。 測定が計画通り行われたかを振り返ること。

科目名	地域共生フィールドワーク実習*			科目コード	23270	
英文名	Fieldwork of Inclusive Society			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)	
担当教員	山崎 寿美子/中村 壘		教員コード	147/138	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・1時限		授業形態	実習
学位授与方針との対応	<input type="checkbox"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="checkbox"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="checkbox"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="checkbox"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input checked="" type="checkbox"/>	5.学習の過程で発見した課題を探索する	<input type="checkbox"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	教員の指導のもとでフィールドワークのテーマを決め、実際に地域に出かけて調査を行う。最後に調査結果をまとめ発表を行う。対象地域は千葉県内を予定している。					
授業の狙い・到達目標	実習を通して、調査方法、データの分析方法、プレゼンテーションの仕方などを身につけることができる。また実習での経験を通して、フィールドワークの意義を学びながら、次年度の卒業研究に役立てる。					
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては応用レベルである。 関連科目:地域共生専攻のすべての科目					
授業外学習(予習・復習)	授業スケジュール記載の予習と復習に取り組むこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	特になし					
課題に対するフィードバック	授業の中で随時コメントをする。					
成績評価方法	実習態度(60%)、報告書等の作成(20%)、プレゼンテーション(20%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	実習の性格上、地域の方々と関わる機会が多いため、積極性と協調性は欠かせない。また時間を守り、欠席する際は必ず事前に担当教員に連絡をすること。授業スケジュールは実習地側の事情を最優先させるため、変更することもある。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org(中村)、yamazaki@aikoku-u.org(山崎)					

授業スケジュール

地域共生フィールドワーク実習

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2回	学習内容 予習 復習	テーマの選定① テーマについて、自らの考えを整理しておくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
3回	学習内容 予習 復習	テーマの選定② テーマについて、自らの考えを整理しておくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
4回	学習内容 予習 復習	実習地について調べる①(歴史・自然・生活環境) 調べるための資料を集めてくること 教員や他の受講生の意見を踏まえて、資料収集と分析を進めること
5回	学習内容 予習 復習	実習地について調べる②(産業・文化) 調べるための資料を集めてくること 教員や他の受講生の意見を踏まえて、資料収集と分析を進めること
6回	学習内容 予習 復習	調査① 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
7回	学習内容 予習 復習	調査② 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
8回	学習内容 予習 復習	調査③ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
9回	学習内容 予習 復習	調査④ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
10回	学習内容 予習 復習	中間報告 これまでの調査を振り返ること 課題点を整理し、次に何を調査するかを検討すること
11回	学習内容 予習 復習	調査⑤ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
12回	学習内容 予習 復習	調査⑥ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
13回	学習内容 予習 復習	調査⑦ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
14回	学習内容 予習 復習	調査⑧ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
15回	学習内容 予習 復習	報告会 これまで得られたデータを、発表できるようにまとめてくること 教員や他の受講生の意見をふまえて、報告書にまとめ、提出すること